PUBLIC RELATIONS MAGAZINE

木生

かつら [KATSURA]

北薬大情報
北海道薬科大学広報部
2010.6.4
Vol. 108
発行：北海道薬科大学
〒047-0264 小樽市桂岡町7番1号
TEL(0134)62-5111 FAX(0134)62-5161
URL http://www.hokuyakudai.ac.jp

1 入学宣誓式で宣誓書を読み上げる
中田裕貴君
2 ハワイ州立大学マノア校で行われた
海外語学研修
3 戸上紘平君（大学院博士後期課程）に
博士学位を授与
4 連携協定書を交わす
田中繁道手稲渓仁会病院長（左）と
大和田榮治学長（右）
5 親睦を深めた
新入生一泊オリエンテーション

CONTENTS

平成22年度入学宣誓式／人事異動のお知らせ／校務役職発令／学位記授与式を挙行
医療法人 渓仁会 手稲渓仁会病院と連携協定を結びました／中野善明先生が名誉教授へ
第95回 薬剤師国家試験で本学は全国第4位／平成22年度 薬剤師生涯研修プログラム
北海道工業大学医療福祉工学科との勉強会に参加して／戸上、立浪氏に博士学位を授与
第2回海外語学研修が行われました／薬局を起点とした地域健康の支援／第4回薬物乱用防止キャンペーンに参加して
交通安全講習会（SDA総会）を開催／平成22年度科学研究費補助金／学部奨学生、大学院研究奨励生が決定
日本薬学会年会ハイライトポスターに選ばれる／本学学生が日本薬学会北海道支部例会で発表
新入生歓迎会／平成22年度新入生一泊オリエンテーションを実施／入学前ガイダンスを開催
平成22年度 年間行事予定／オープンキャンパスのご案内／平成23年度 学生募集要項（概要）

北海道薬科大学
HOKKAIDO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY SCHOOL OF PHARMACY

平成22年度入学宣誓式

北海道薬科大学　学長　大和田　榮治

平成22年度入学宣誓式が、平成22年4月5日（月）に挙行され、薬学部薬学科227名、大学院薬学研究科薬科学専攻修士課程1名、生物薬学専攻博士後期課程2名が入学しました。ここに、入学宣誓式での学長告辞の全文を掲載します。

今日の良き日に、来賓として本学の設置母体である学校法人北海道尚志学園の西理事長を筆頭とする役員の方々や、学園設置の北海道工業大学および北海道自動車短期大学の各学長、北海道尚志学園高等学校および北海道自動車学校の各校長、ならびに本学名誉教授の方々、同窓会会長、父母後援会会長さらには北海道薬剤師会会長のご列席をいただき、ご家族ともども諸君の入学を祝福できますことは、大変喜ばしく、本学教職員一同を代表し心からお祝い申し上げます。

学部入学の諸君は、本学を目指し、延べ625名の志願者の中から選抜されての入学ですから、その喜びもひとしおのことと推察します。本当によく頑張りました。どうか、これまでに諸君を温かく見守り、励まして下さった先生やご家族の方々への感謝も忘れないで下さい。

さて、学部の諸君が入学した本学薬学科は、その教育理念に「ファーマシューティカル・ケアの実践を通じて地域社会ならびに国民の健康と福祉の向上に寄与する薬剤師の養成を図る」と掲げる、6年制のプロフェッショナルスクールです。ここでいうスクールとは、4年制学部のカレッジにさらに2年間の専門修士課程を上乗せさせた、いわゆる高度専門職能コースに相当するものです。

薬剤師は医師と同様に、プロフェッショナルとして国民から信頼、尊敬される職業です。そのために平成18年度から修学年限が6年に延長されました。諸君はその5期生となります。どうか、これからはそのプライドをもって学んでほしいと思います。

ここで本学の教育理念について、もう少し詳しく説明したいと思います。通常、薬剤師になるためには、6年制の薬学部を卒業し、薬剤師国家試験に合格する必要があります。どこの大学を卒業しようと、国家試験に合格すれば薬剤師になることができます。しかし、私達が本学で養成しようとしている薬剤師は、「ファーマシューティカル・ケア」を提供できる薬剤師です。それではファーマシューティカル・ケアとは何でしょう。薬剤師法によれば、「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」とあります。実際、日常的に行われている薬剤師業務は、薬局で医師の処方せんに従い医薬品を調合し患者に交付する、あるいは、店頭で客の求めに応じ、一般用医薬品を販売するといったものに代表されます。確かに、薬剤師が提供するこれらの行為には専門的知識と技術が要求され、薬剤師免許が必要なことは納得できます。それでは、このような薬剤師業務とファーマシューティカル・ケアはどこが違うのでしょう。それは、薬剤師の提供する業務に患者中心の視点があるかどうかの違いです。例えば、従来の概念における調剤では、医師の治療方針に従い、いかに正しく薬剤を調合し、患者に正しく服用させるかが重要でした。これに対し、ファーマシューティカル・ケアとして提供される調剤では、まず、この処方が患者にとって最善でかつ患者のQOL（生活の質）の改善に沿ったものであるかをチェックします。もし、何か問題がある場合には、医師に対し処方設計の変更の申し入れを行います。さらに、患者に薬剤を交付した後には、患者の状態を観察することで、薬物療法が適正かつ安全に行われているかを判断し、その結果を医師にフィードバックするなど、責任をもって患者の薬物療法に対しリーダーシップをとります。一方、医薬品の販売においては、従来の業務では、客が求めるままに医薬品を販売したり、相談にのるだけでした。これがファーマシューティカル・ケアになると、客の訴えから病状を判断して適切な薬剤を選択したり、あるいは病院の受診を勧めたりし、医薬品販売後もそれらの結果をフォローアップするといった、患者中心のきめの細かいサービスを提供します。

本学のカリキュラムでは、ファーマシューティカル・ケアに必須とされる薬物療法のスペシャリストとしての資質を磨くため、病態を観察、理解するための病態生理学、それに基づく薬物治療学などに多くの時間を割いています。また、授業の形態は、与えられた症例から問題を抽出し自ら解決していく、いわゆる問題解決型（PBL）のような実践的なものが多く、諸君のこれまでの講義中心暗記型授業に慣れた体質を変える必要があります。

また、ファーマシューティカル・ケアを実践する上では、病める者に奉仕する医療人としての心構えと、患者を中心とする医療チームの中での患者や医師、看護師とのコミュニケーション能力もまた重要です。もちろん、これらに関連した授業もありますが、こうした資質は、大学の授業だけでは身につきません。そのため、諸君が日常生活の中で挨拶・エチケットなどを含む接遇の自己トレーニングを積極的に行い、友人関係、クラブ活動、ボランティア活動などを通じ、機会あるたびに育む必要があります。本学では医療人としての態度を教育する一環として、こうした学生の取り組みを積極的に支援します。

ここまでの話を聞いていただければ、本学が単に薬剤師免許取得のための予備校ではないことが理解していただけたと思います。確かに、本学は薬剤師国家試験の合格率が高いことで有名です。今年の合格率は61校中4位でした。しかし、

学生はそれだけを目標として頑張ったわけではなく、本学の教育理念に従ったカリキュラムにより勉学を続けた結果と考えて下さい。

諸君は、将来、医療人としての薬剤師となり、患者に尽くし、地域の人々から信頼され尊敬される人生を送りたいという夢をもって、今、スタートラインに立っていると思います。諸君の夢が夢に終わらないように、品質管理の概念を啓蒙し、我が国の工業製品の品質を世界に冠たるものとならしめたデミング博士の言葉、"Vision without action is a dream. Action without vision is just passing the time. Vision with action can change the world."を紹介します。

これは、ビジョン（計画）があっても実行がなければ、夢に過ぎない。ビジョンもたずに実行するのは、ただ時を無為に過ごしているに過ぎない。ビジョンに実行が伴ってはじめて世を変えるような成果が得られるという意味です。現在、諸君のビジョンにとどまっている薬剤師となる夢を、本学の理念を反映したカリキュラムに基づき、今後、真摯に勉強を続けることにより、6年後には必ず現実にすることを心から祈念して告辞とします。

人事異動のお知らせ

◇**教員**

●**昇格**（平成22年4月1日付）
准教授　大滝康一
（臨床薬学系　薬物治療学分野）
准教授　町田麻依子
（臨床薬学系　病態科学分野）

●**退職**（平成22年3月31日付）
教授　國仙久雄
（基礎教育部　化学分野）
教授　中野善明
（基礎教育部　物理学分野）

◇**職員**

●**採用**（平成22年4月1日付）
総務課契約職員　加藤陽子

●**転入**（平成22年4月1日付）
総務課長　高島宏恭
（工大、学生課長から）
管理課長　渡邊忠則
（教育･研究支援センター管理責任者から）
学生課長　土橋幸恵
（工大、交流推進係長から）
図書課長　吉呑正博
（工大、図書課長から）
学生係長　高橋伸仁
（法人本部、人事係長から）
総務課主事　菅原節夫
（工大、教務課主事から）
教務課主事　上田　豊
（工大、情報技術課主事から）
図書課主事　石山真二
（工大、教務課主事から）

●**昇格**（平成22年4月1日付）
事務局長　角田孝敏（薬大、管理課長）
管理係長　井上弘昭（薬大、技師）

●**退職**（平成22年3月31日付）
図書課主事　工藤義幸
総務課契約職員　大久保裕貴

●**転出**（平成22年3月31日付）
事務局長　竹井壽彦
（工大、事務局長へ）
総務課長　谷口勇司
（法人本部、事務局長へ）
学生課長　横井啓寿
（短大、学生支援課長へ）
図書課長　児玉　毅
（短大、進路支援課長へ）
管理係長　本間光孝
（教育･研究支援センター主事へ）
学生係長　佐久間和則
（工大、就職開発係長へ）
総務課主事　開米篤士
（工大、就職支援課主事へ）
教務課主事　石黒祐介
（工大、学生支援課主事へ）

校務役職発令

平成22年度法人発令の校務役職をお知らせします。

副学長：市原和夫（薬学部長、大学院薬科学専攻長兼任）
薬学科長：渡辺泰裕（医療薬学科長、大学院生物薬学専攻長兼任）
薬学科　基礎薬学系主任：渡辺泰裕
薬学科　臨床薬学系主任：郡　修徳
薬学科　社会薬学系主任：早瀬幸俊
薬学科　薬学教育系主任：高橋和彦
薬学科　基礎教育系主任：島森美光

大学院運営部　部長：市原和夫　**主任**：渡辺泰裕、郡　修徳、伊藤慎二、高島宏恭、渡辺昌美、土橋幸恵、木村健一
教務部　部長：渡辺泰裕　**主任**：早勢伸正、加藤隆治、丁野純男、渡辺昌美
学生部　部長：猪爪信夫　**主任**：丹保好子、野呂瀬崇彦、田中三栄子、土橋幸恵
就職部　部長：渡辺一弘　**主任**：桜井光一、村上美穂、村岡早苗、土橋幸恵
入試部　部長：黒澤菜穂子　**主任**：佐藤久美、今井幹典、小松健一、木村健一
広報部　部長：渡辺泰裕　**主任**：市原和夫、戸田貴大、山下　浩、木村健一
図書館･医薬情報センター　館長：市原和夫　**主任**：梅田純代
薬用植物園　園長：坂東英雄　**主任**：山下　浩
実験動物センター　センター長：佐藤久美　**主任**：金田　繁
ＲＩセンター　センター長：伊藤慎二　**主任**：水上徳美
中央機器センター　センター長：江川祥子　**主任**：水上徳美
情報システムセンター　センター長：島森美光
薬学教育センター　センター長：高橋和彦
生涯学習センター　センター長：郡 修徳

学位記授与式を挙行

平成21年度学位記授与式が平成22年3月12日（金）に札幌ガーデンパレスにおいて挙行されました。

学位記授与式は開会のことばで始まり、修了生・卒業生が一人ひとり壇上で学長より学位記を受け取りました。続いて、学長表彰が行われ、成績優秀者として、大学院博士後期課程は戸上紘平君、修士課程は生物薬学専攻　大場達也君、臨床薬学専攻　熊谷和美さんに表彰状と副賞が贈られました。学長告辞、来賓祝辞、卒業生答辞の後、大学院修了生、学部卒業生全員で薬剤師としての誓いと活躍を宣誓しました。学歌斉唱と閉会のことばで学位記授与式は終了しました。

授与式終了後、同ホテル内において、来賓、教職員、大学院修了生・卒業生とご父母が参加し、大学主催の祝賀パーティーが行われました。大和田学長、逢坂信孝桂青会委員長のお祝いのことばに続き、竹内伸仁同窓会会長が乾杯の音頭をとりました。立食形式による懇談、記念写真撮影などが行われた後、小池智彦父母後援会会長の挨拶、市原和夫学部長による閉会挨拶と乾杯により盛大な祝賀パーティーは終了しました。

盛会のうちに終了した祝賀パーティ

医療法人 渓仁会 手稲渓仁会病院と連携協定を結びました

北海道薬科大学は医療法人 渓仁会 手稲渓仁会病院と教育・研究に関する連携協定を締結しました。調印式は平成22年4月14日(水)に手稲渓仁会病院で行われ、手稲渓仁会病院の田中繁道病院長と本学の大和田榮治学長が協定書にサインを交わしました。

この協定は、「相互に人的・知的資源の交流を図り、教育、医療、学術研究の分野で連携し、薬剤師の職能の向上を目指す」ことを目的としたものです。この協定に基づき、本学教員を手稲渓仁会病院へ薬剤師として常駐派遣することが可能になります。

中野善明先生が名誉教授へ

本年3月をもって定年退職された中野善明教授（物理学分野）が、その長年の功績により、本学の名誉教授の称号を贈呈されました。贈呈式は平成22年3月30日（火）に学長室で行われ、大和田学長より称号記が授与されました。

第95回 薬剤師国家試験で本学は全国第4位

平成22年3月30日（火）に厚生労働省より「第95回 薬剤師国家試験結果」が発表されました。本学の卒業生は97名が受験し、合格者は71名で、合格率は73.20％でした。なお、全国の受験者は6,720名で、合格者、合格率はそれぞれ3,787名、56.35％でした。大学別の合格率では、本学は全国61大学中、第4位の成績でした。

平成22年度 薬剤師生涯研修プログラム

北海道薬科大学は平成20年度より薬剤師生涯研修プロバイダーとしての認定を受けていますが、平成22年度の研修プログラムが下記のとおり決まりました。研修プログラムは、患者のため、医療のため、社会のために役立つ薬剤師を支援する内容となっています。ぜひとも受講し、自らの職能を高めてください。なお、詳細は本学ホームページを参照して下さい。

●平成22年度 開催講座予定

	講座名	講座名	講　師	開催日	受講定数	会　場
1	薬剤師スキルアップ講座	臨床コミュニケーション	北海道薬科大学　准教授　野呂瀬 崇彦	H22.4.18	40	北海道薬科大学
2		調剤	北海道薬科大学　教授　早勢 伸正	H22.5.16	40	北海道薬科大学
3		医薬品情報の収集と活用	北海道薬科大学　教授　黒澤 菜穂子	H22.6.20	40	北海道薬科大学
4		薬歴管理	北海道薬科大学　教授　郡 修徳	H22.7.11	40	北海道薬科大学
5		栄養輸液管理	北海道薬科大学　教授　早川 達	H22.8.22	40	北海道薬科大学
6		薬物治療モニタリング	北海道薬科大学　教授　猪爪 信夫	H22.9.12	20	北海道薬科大学
7	病態・薬物治療フォローアップ講座	糖代謝異常疾患	市立札幌病院 糖尿病内分泌内科 部長 柳澤 克之 時計台記念病院 薬剤部 部長 毛利 智彦	H22.10.23	40	大学共同利用施設ACU
8		喘息・COPD	旭川医科大学病院 呼吸器センター 講師 長内　忍 旭川医科大学病院 薬剤部 主任 板垣 祐一	H22.11.20	40	大学共同利用施設ACU
9		骨粗鬆症	旭川医科大学病院 整形外科 准教授 伊藤　浩 旭川医科大学病院 薬剤部 田原 克寿	H22.12.18	40	大学共同利用施設ACU
10		関節リウマチ	旭川医科大学病院 病態代謝内科学分野 講師 平野史倫 旭川医科大学病院 薬剤部 飯田慎也	H23.1.15	40	大学共同利用施設ACU
11		うつ病	旭川医科大学病院 精神神経科 准教授 田村 義之 北海道薬科大学 准教授 大滝 康一	H23.2.19	40	大学共同利用施設ACU
12		緩和医療	勤医協中央病院 緩和ケア診療部 部長 小林 良裕 市立札幌病院 薬剤部 薬剤課長 岩井 新治	H23.3.12	40	大学共同利用施設ACU
13	薬剤師教育研修会薬剤師アップトゥデート講座	よくわかる妊婦への服薬指導	虎の門病院 薬剤部長　林　昌洋	H22.6.18	140	札幌市教育文化会館
14		持参薬チェックにおける薬剤師の役割	北海道薬科大学　准教授　大滝 康一	H22.9.18	140	釧路全日空ホテル
15		薬剤師による在宅医療の運用方法	すばるコーポレーション常務取締役 薬局すばる管理薬剤師　畠中　岳	H22.11.5	140	札幌市教育文化会館
16		薬剤師の新しい業務への展開について	北海道薬科大学　准教授　岡崎 光洋	H22.11.27	140	札幌市教育文化会館
17	薬剤師ステップアップ講座	EMB(根拠に基づく医療)を実践してみよう! ー第1回ー	北海道社会保険病院　総合診療科部長　中川 仁 北海道薬科大学 准教授　岡崎 光洋 北海道薬科大学 准教授　村上 美穂	H22.6.5	40	大学共同利用施設ACU
18		EMB(根拠に基づく医療)を実践してみよう! ー第2回ー	北海道社会保険病院　総合診療科部長　中川 仁 北海道薬科大学 准教授　岡崎 光洋 北海道薬科大学 准教授　村上 美穂	H22.6.12	40	大学共同利用施設ACU
19		輸液療法に強くなろう! ー電解質輸液ー	手稲渓仁会病院 腎臓内科部長　山地　泉 手稲渓仁会病院 副薬剤部長　本郷 文教 北海道薬科大学 教　授　郡　修徳	H22.10.2	40	大学共同利用施設ACU
20		輸液療法に強くなろう! ー栄養輸液ー	札幌医科大学附属病院 第一外科　助　教　信岡 隆幸 札幌医科大学附属病院 薬剤部 高橋 和也	H22.10.9	40	大学共同利用施設ACU
21		副作用早期発見のための薬剤師による フィジカルアセスメント	小樽掖済会病院 院　長　佐々木 一晃 群馬大学病院 病棟薬剤主任　金田 亜季子 北海道薬科大学 教　授　古田 精一 北海道薬科大学 助　教　藤本 哲也	H22.11.6	40	北海道薬科大学
22		薬局を活性化するリーダーシップ	北海道薬科大学　准教授　野呂瀬 崇彦	H22.12.4	40	大学共同利用施設ACU

※ACUは、札幌市中央区北4西5 アスティ45内の大学共同利用施設です。

北海道工業大学医療福祉工学科との勉強会に参加して

5年　伊東　かほり

平成22年3月24日（水）、北海道工業大学において、北海道工業大学医療福祉工学科と北海道薬科大学の学生による合同の勉強会を開催しました。開催のきっかけは、工業大学の友人と話し合った、「お互いの目指す職種についてもっと知りたい」という思いでした。今回の勉強会では、北海道尚志学園の系列校である両大学の医療従事者を志す学生との交流をとおして、異なる分野で得た知見をもとに議論し、医療の将来について考えるということを目的としました。

参加者は、工業大学の学生4人と院生1人、薬科大学の学生2人のスタッフを含め、計17人となりました。講演は、臨床工学技士や薬剤師の業務紹介など5つのテーマが設けられ、私は司会を担当するとともに、「模擬講義～薬の効果向上～」のタイトルで講演を行いました。また3～4名ずつの小グループに分かれて、未来のAED（自動体外式除細動器）や花粉症に対する薬物療法に関するグループディスカッションも行いました。

勉強会では様々なことについ
ことができただけではなく、皆
てイベントをやりとげる素晴
じました。スタッフの一人とし
きたことはとても嬉しく、企画
担当してくれたスタッフメン
強会に参加してくれた両大学
皆さんには感謝の気持ちで一杯

次回は北海道薬科大学での開催を予定しています。今回のアンケートや反省点を踏まえて、より良い勉強会になるように頑張りたいと思います。

伊東さんによる講演

戸上、立浪氏に博士学位を授与

本学に申請された戸上紘平氏（大学院博士後期課程）、立浪良介氏（本学助教）に博士（薬学）が授与されました。学位記は、課程博士を取得した戸上氏には平成22年3月12日（金）に挙行された学位授与式で、論文博士の立浪氏には3月11日（木）に学長室において授与されました。

両氏の論文題目とその内容は下記のとおりです。

●戸上 紘平 氏

呼吸器感染症治療薬であるマクロライド及びケトライド系抗菌薬の肺組織移行特性に関する研究

呼吸器感染症治療薬であるマクロライド及びケトライド系抗菌薬が、肺胞上皮細胞のMDR1を介した輸送により肺粘液層へ効率的に移行することを示しました。また、肺粘液層に移行したこれらの抗菌薬は、能動的な取り込み及び細胞内のpH依存的な分布機構により、肺胞マクロファージ内でさらに高濃度を示すことを明らかにしました。これらの成果は、呼吸器感染症の治療における抗菌薬の適正な使用に重要な情報を与えるものです。

●立浪 良介 氏

糖化反応生成物メチルグリオキサールによる血管内皮のアポトーシスと酸化ストレスに関する研究

メチルグリオキサールが血管内皮のアポトーシスを誘導し、この過程で細胞内の活性酸素種レベルが増大することを示しました。また、抗酸化作用とアポトーシス抑制作用を併せもつチオレドキシンを中心とするチオレドキシンシステムに対して、メチルグリオキサールが機能障害を与えていることを明らかにしました。これらの知見は、メチルグリオキサールによる血管傷害の機構解明、さらには糖尿病の予防策や治療法の確立に寄与するものです。

第2回海外語学研修が行われました

平成22年3月7日（日）より21日（日）までの2週間にわたり、ハワイ州立大学マノア校において、本学学生14名が短期語学研修を行いました。本研修は英語教育プログラムの一環として昨年度より導入され、今回で第2回目となりました。英語レッスン、現地学生との交流、薬局・病院見学やフリータイムでの珍道中などをとおし、参加者が楽しみながら英語に触れつつ、海外文化の理解を深めた研修となりました。下記に参加学生の紀行文を紹介します。

ハワイ語学研修を振り返って

薬学科2年　小山　絹子

ハワイでの2週間、それはもう“ドキドキの毎日”だった。何もかもが初めてのことで、緊張と不安、そしてわくわくする期待が入り混じった気持ち。日本では経験できない貴重な体験をしてきた。

滞在中は主に午前中English Class、午後Free timeという日々を過ごした。English ClassはMr. Robertによる授業、Free timeは友達とバスに乗ってショッピングや登山、ビーチに出かけた。Free timeにはハプニングがつきもので、バスが反対方向に進んで行った時は本当にびっくりした。たくさんのミスアドベンチャーがあったけれど、今となってはいい思い出だ。

また、English Classでのハワイ大学の学生とのInterchangeも強く印象に残っている。4回のInterchangeがあり、4名の学生と話をした。初めはうまく伝えられなくて苦戦したが、しだいに慣れてくると会話がはずむのが楽しくて、私はこの時間がとても好きだった。学生の方たちはみんな明るくて、個性豊かで、面白かった。大学の様子や音楽、おすすめのお店など様々なことを話した。Interchangeでいろいろなことを教えてもらい、ハワイの滞在をより楽しいものにできたと思う。

English Classでは、Interchangeの他にも教室で前日の出来事について英語で伝える授業や、病院・薬局・薬草園の見学をした。どこに行っても、明るく開放的な雰囲気が感じられ、とても心地よかった。病院の中は日本のような“病気＝辛い、大変”といった重苦しい雰囲気はない。それは白衣を着ている人が少なく、医者もアロハシャツを着ているからだろうか。日本でもアロハシャツを着る、とまでは言わないけれども、将来、医療従事者として社会に出るときはこのような雰囲気を目指したいと思う。

研修中のひとコマ

このプログラムに参加しハワイの文化に親しむことで、受容力がつき、ひとまわり大きく成長できたと思う。明るくて気さくな人々、温暖な気候、壮大なキャンパス、信じられないくらいビッグサイズなパンケーキ・・・すべてが私に新鮮な驚きを与えてくれた。そしてRobertを含む先生方、優しい先輩、同い年だけれどもすごくしっかり者の友達。たくさんの人々のおかげで毎日楽しく、本当にあっという間の2週間だった。私はこの素敵な思い出を忘れない。この経験を今後の生活に役立てていきたいと思う。

薬局を起点とした地域健康の支援

本学は、地域で活躍する薬剤師の育成を教育理念・目標に掲げていますが、現在、北海道大学保健科学研究院が実施する、地域住民の健康維持と増進に寄与する遠隔健康相談システムの設計のための実証実験に協力しています。実証実験は、調剤薬局を併設したツルハドラッグ店舗内（ツルハドラッグ中標津東店，岩見沢大和店，札幌元町駅前店）に設置した血圧計などを接続した遠隔会議システムと、北海道大学保健科学研究院内に設置された遠隔健康相談室とを、高速ブロードバンドで結び、店舗利用顧客を対象とした遠隔健康相談活動を展開するプロジェクトです。本学の他、シスコシステムズ合同会社、株式会社ツルハ、ネットワンシステムズ株式会社、岩見沢市と共同で、東日本電信電話株式会社（NTT東日本）の協力のもとで実施されています。

本学は本プロジェクトの実施において、アクセシビリティの良い医療提供機関である薬局が地域の健康を支援する窓口となるために、薬剤師では補いきれない健康相談を解決する手段の開発、そして将来の医療や介護への展開とその可能性について模索するために参加しています。

実証実験で使用しているシステム

第4回薬物乱用防止キャンペーンに参加して

大学院博士後期課程　1年　　岩山　訓典

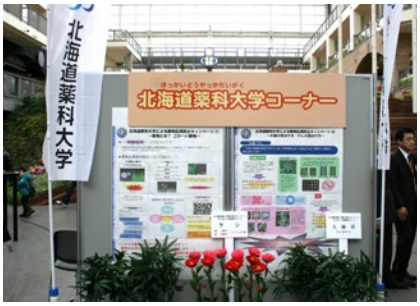
私は、平成22年3月7日（日）に札幌市のサッポロファクトリーで開催された「第4回薬物乱用防止キャンペーン」に学部学生7名と共に参加しました。

このキャンペーンは、札幌薬剤師会とAIR-G' FM北海道が共同で行っている『薬物乱用防止』を呼びかけるイベントです。近年、麻薬や覚せい剤などの薬物乱用は、世界中で広がり続けています。これら薬物は、自分自身の健康を害することはもちろんですが、周囲の人々へ被害を及ぼしたり、さらに最終的には社会や国を崩壊へと導くことも十分に考えられます。また、違法薬物以外でも、医療用医薬品を適正な用法・用量から逸脱して使用することは薬物乱用の一つです。

キャンペーンは、特に若い世代に『薬物乱用の危険性』を理解してもらい、『絶対やらない』という意識を強くもってもらうことを目的としています。

キャンペーンは、薬物乱用に関するクイズ、中央警察署による薬物乱用をテーマとした寸劇、クラシックライブ、北海道警察本部による高校生との薬物乱用に関するディスカッションと盛りだくさんでした。私たちは、本学における薬物乱用防止への取り組みについて報告し、また、クイズの問題パネルの作成や解説などを手伝わせていただきました。その他、薬剤師の職能を市民の方々により理解していただくために、お菓子を使った「こども調剤体験」、血管年齢測定なども行いました。私は「こども調剤体験」を担当し、ステージ上で子どもたちにお菓子を使った粉砕調剤を体験してもらいました。とても緊張しましたが、AIR-G' アナウンサーの高山秀毅さんと一緒だったのでとてもスムーズに終えることができました。

こども調剤体験



本学の展示ブース

このキャンペーンのために、札幌薬剤師会やAIR-G' FM北海道の方々との打ち合わせなど、1カ月以上前から準備を始めました。当日は、日本薬剤師会会長、北海道薬剤師会会長も参加されたほか、福岡県薬剤師会の方々も見学に来られ、この薬物乱用防止キャンペーンの注目度は、非常に高いと感じました。このようなキャンペーンを継続して行うことで、イベントに参加していただいた方に、一人でも多く『薬物は絶対にやってはダメだ』ということをわかっていただくことが重要だと思っています。私は、今後も薬物乱用防止活動に参加していきたいと思います。本学学生の皆さんも、ぜひ参加して下さい。

交通安全講習会（SDA総会）を開催

平成22年4月26日（月）に平成22年度SDA（安全運転者の会）総会および交通安全講習会が開催され、約100名の学生が参加しました。総会は現SDA会長・笹本義統君（4年）の司会で進められ、新会長として木崎久実さん（3年）が承認されました。平成21年度決算と平成22年度予算が承認された後、「セーフティーラリー北海道2010」の紹介と参加申込が案内されました。引き続き、小樽警察署・白川浩幸地域・交通担当次長による交通安全講習会が行われ、道内大学生の交通事故の現状と交通安全を再認識することが促されました。

交通安全講習会

平成22年度 科学研究費補助金

文部科学省および日本学術振興会から、平成22年度の科学研究費補助金の交付内定が通知されました。内定者および研究課題名は以下のとおりです。

〔基盤研究C〕

●森本　一洋（継続）
「肺細胞のトランスレーショナル機構を利用した難治性肺感染症治療システムの構築」

●山田　恵（新規）
「日本語母語話者における英語のリーディング習得と書字認知方略の研究」

●櫻井　秀彦（新規）
「情報の非対称性の影響を考慮した専門サービスの品質評価構造に関する実証研究」

●猪爪　信夫（新規）
「切迫早産治療薬リトドリンの適正使用指針構築」

●戸田　貴大（新規）
「シトクロムP450（CYP）酵素を介したロサルタンによるアラキドン酸代謝阻害」

〔若手研究B〕

●丁野　純男（新規）
「イムノリポソームによるDDSを利用した動脈プラークの治療戦略」

学部奨学生、大学院研究奨励生が決定

平成22年度の学部奨学生および大学院研究奨励生が決定し、平成22年4月28日（水）に証書授与式が行われました。学部奨学生は前年度に優秀な成績を収めた2～5年生各10名に、奨学金として12万円が給付されました。なお、学部1年生の奨学生は前期の成績に基づき10月頃に決定します。

大学院は研究奨励金として、修士課程の1年2名、2年6名に15万円、博士後期課程3名に45万円が給付されました。

学部奨学生、大学院研究奨励生は以下のとおりです。

【学部奨学生】

2年：清水麻衣、百武郁美、青山　剛、奥野麻衣、眞坂拓実、湯浅麻記、小山絹子、森野太一、桂　志保里、石黒由梨
3年：松崎円香、角谷直志、菅原久美子、浅水駿充、菅野貴寛、中村勝貴、竹田桂子、石上紘平、佐伯有紀、新井諒也
4年：青木理沙、石郷友之、川口貴史、岡見英里香、逢坂信孝、星　貴薫、久保葉月、浅野裕章、吉良恵美、布施久恵
5年：伊花和宏、武田龍馬、森崎陵士、三浦麻緒、高橋涼太、八巻美和、花見麻帆、池田知弥、鳥居香帆里、木村雄太

【大学院研究奨励生】

修士1年：（臨床薬学専攻）前田詩織、（薬科学専攻）滝口晋平
修士2年：（生物薬学専攻）佐藤慶三、山本　潤、山本えり、（臨床薬学専攻）原田瑞記、葛間慎介、森　美奈子
博士1年：柴田倫人、岩山訓典
博士3年：小山恭平

日本薬学会年会 ハイライトポスターに選ばれる

平成22年3月28日（日）～30日（火）に岡山市で開催された日本薬学会第130年会において、本学の3つの演題がハイライトポスターに採択されました。ハイライトポスターには、学術的に優れ、一般の方々の興味を惹く演題が選ばれます。

発表者と発表題目は以下の通りです。

●吉田　訓子（本学大学院生）　他
各種ペプチドを関与成分とする特定保健用食品の小腸ペプチド輸送系に対する影響（サッポロドラッグストアーとの共同研究）

●川嶋　恵子　他
化学の理解度を向上させる自由セミナー－個人支援の効果　その2－

●田中　三栄子　他
北海道薬科大学の喫煙防止教育
－喫煙者から非喫煙者への転向－

本学学生が日本薬学会北海道支部例会で発表

平成22年5月8日（土）、9日（日）に札幌コンベンションセンターで開催された日本薬学会北海道支部第134回例会において、4年生の村尾優さんが口頭発表しました。演題は「北海道薬科大学の薬物乱用防止への取り組み」で、大学祭での「薬物乱用防止キャンペーンin北薬大」、オープンキャンパスや小樽薬剤師会主催のキャンペーンでの薬物乱用防止ポスターの展示など、桂青会が中心となって行っている本学の薬物乱用防止活動についてまとめました。

新入生歓迎会

平成22年4月17日（土）12時30分より、桂青館において恒例の新入生歓迎会が開催され、新入生、在校生、教職員など約400人が参加しました。新入生と在校生は、軽食が用意されたテーブルを囲む立食形式で親睦を図りました。桂青会会長の4年生・逢坂信孝君の司会進行で、桂青会活動やクラブ活動の紹介、軽音ライブ、ダンスショーなどが行われ、盛況なうちに歓迎会は終了しました。

クラブ活動の紹介

平成22年度新入生一泊オリエンテーションを実施

クラス担任を交えてのグループワーク

平成22年4月6日（火）、7日（水）の2日間、北広島クラッセホテル（北広島市）にて平成22年度新入生一泊オリエンテーションが実施されました。この行事は、新入生が学生同士、クラス担任との親睦を深めるとともに、これから始まる大学生活における不安を少しでも解消し、スムーズに大学生活に溶け込むことを目的に、昨年度より実施されているものです。

1日目、新入生は13時30分に大学を出発、バスで会場のホテルへ移動しました。そして、新入生226名、教員40名、大学院生や学部上級生によるファシリテーター（進行役）20名の計約300名が、大小10室に分かれてワークを行いました。1クラス5～6名の新入生とクラス担任がテーブルを囲んで1グループとなり、4～6グループを1ユニット（1部屋）として、学生ファシリテーターがワークを進行しました。ワークは、合宿中に着用する自己PRを兼ねた名札づくりから始まり、自己紹介、合意形成ゲームなどでコミュニケーションをとり、クラスメンバーがお互いどんな人かがわかってきたところで、夕食会に移りました。夕食会は学長の挨拶に始まり、立食形式で食事をとりながら自由に学生同士、教職員と歓談しました。このとき、お互いを知り合うきっかけづくりを目的として、自作の名刺を交換し合う「名刺交換会」も実施しました。この名刺交換がきっかけで、クラス外にも友人の輪が広がったようで、夕食会後も新しくできた仲間同士で話し込むようすが伺えました。

2日目はグループメンバーを変えて、「充実した大学生活のために」というテーマで、グループディスカッションを行いました。最初は緊張した面持ちだった学生も、すぐに打ち解けて積極的な意見の交換が始まりました。途中でグループメンバーを交換しながらディスカッションを続ける「ワールドカフェ」という手法を用い、出し合った意見を各テーブル上の模造紙に記録していきました。発表時には、それぞれに個性のある「充実した大学生活像」ができあがりました。最後に全体のふり返りを行い、昼食をとった後に大学に戻り、1泊2日の合宿が終了しました。

学生、教員を対象としたアンケートでは、「親睦が深められた」、「大学への不安がやわらいだ」など前向きな声が9割以上でした。また、本合宿を支えた学生ファシリテーターに対する評価も非常に高く、ファシリテーター自身からも「大変だったけど貴重な体験ができた」、「ぜひ来年もまたやってみたい」といった声がありました。次年度以降も改善を加えながら、より充実した一泊オリエンテーションを行う予定です。

入学前ガイダンスを開催

平成22年度入学前ガイダンスを、2月22日（月）、23日（火）の両日にわたり、本学のほか、函館、旭川、帯広の計4会場で開催しました。参加者は本学が73名、函館11名、旭川11名、帯広10名（計105名）でした。各会場において、学生生活、授業の履修概要を説明した後、個別面談を行いました。個別面談では、学習相談、大学生活への不安、入学式やクラブ活動、奨学金制度についての質問が多くありました。

平成22年度 年間行事予定

4月	5日(月)	入学宣誓式
	6日(火)	宿泊オリエンテーション(学部新入生:～7日)
		科目別実力テスト(学部4年:～7日)
		ガイダンス(～9日)
	8日(木)	学生定期健康診断(～9日)
		新入生基礎学力テスト(学部新入生:～9日)
	12日(月)	前期始講
	17日(土)	新入生歓迎会
	26日(月)	SDA(安全運転者の会)総会、交通安全講習会
5月	15日(土)	開学記念日
6月	21日(月)	アーリーエクスポージャー(学部1年:～25日)
7月	2日(金)	体育大会・大学祭(～4日)
	5日(月)	前期終講(学部5年)
	8日(木)	前期定期試験(学部5年:～13日)
	22日(木)	仮進級試験(学部5年:～23日)
	23日(金)	前期終講(学部2～4年、大学院)
	26日(月)	前期追・再試験(学部5年:～29日)
	28日(水)	前期定期試験(学部2～4年:～8月2日)
	30日(金)	前期終講(学部1年)
8月	4日(水)	前期定期試験(学部1年:～5日)
	5日(木)	薬学共用試験CBT体験受験(学部4年:～6日)
	7日(土)	第1回オープンキャンパス
	8日(日)	第2回オープンキャンパス
	18日(水)	白衣授与式(学部5年)
	21日(土)	修士課程入学試験(1次)
	26日(木)	仮進級試験(学部2～4年:～27日)
	30日(月)	前期追・再試験(学部1～4年:～9月2日)
9月	6日(月)	後期始講(学部4年)
		卒業研究・実務実習開始(学部5年、Ⅱ期)
		前期定期試験(大学院:～13日)
	15日(水)	後期始講(学部1～3年)
	17日(金)	後期始講(大学院)
		地域ゴミ拾い活動

10月	2日(土)	第3回オープンキャンパス
	3日(日)	父母懇談会(本学)
	16日(土)	父母懇談会(地方:～17日)
	18日(月)	体験学習(学部2年:～29日)
		経験学習(学部3年:～29日)
	23日(土)	父母懇談会(地方:～24日)
	29日(金)	後期定期試験前終講(学部4年)
11月	4日(木)	後期定期試験(学部4年:～8日)
	6日(土)	修士課程入学試験(2次)
	20日(土)	公募制推薦・社会人入学試験(学部)
	21日(日)	指定校・系列校推薦・AO入学試験(学部)
	26日(金)	就職相談会
12月	上旬	実験動物慰霊祭、冬道交通安全講習会
	13日(月)	冬季休業前終講(学部1年)
	16日(木)	薬学共用試験CBT(学部4年:～17日)
	22日(水)	冬季休業前終講(学部2～3・5年)
	24日(金)	冬季休業前終講(学部4年)
1月	6日(木)	冬季休業明け始講(学部4年)
	11日(火)	冬季休業明け始講(学部1～3年、大学院)
		卒業研究、実務実習開始(学部5年、Ⅲ期)
	14日(金)	課程博士学位論文発表会(大学院)
	22日(土)	薬学共用試験OSCE(学部4年:～23日)
	26日(水)	後期終講(学部1～3年、大学院)
	28日(金)	修士学位論文発表会(大学院:生物薬学専攻)
	29日(土)	修士学位論文発表会(大学院:臨床薬学専攻)
2月	1日(火)	一般入学試験前期AB日程(学部:～2日)
	4日(金)	後期定期試験(学部1～3年:～10日)
	18日(金)	博士後期課程・修士課程入学試験(3次)
	19日(土)	一般入学試験後期日程(学部)
	23日(水)	薬学共用試験CBT追・再試験(学部4年)
	26日(土)	薬学共用試験OSCE追・再試験(学部4年)
3月	1日(火)	後期追・再試験(学部1～3年:～4日)
	2日(水)	後期追・再試験(学部4年:～4日)
		博士・修士学位審査結果発表(大学院)
	5日(土)	薬剤師国家試験(～6日)(予定)
	6日(日)	海外語学研修(～20日)
	11日(金)	学位記授与式
	17日(木)	進級発表(学部1～5年)

OPEN CAMPUS

オープンキャンパスのご案内

医療の現場で働く薬剤師の仕事や役割を、模擬講義や多彩な体験実習を通して知ろう!

8月7日(土)	8月8日(日)	10月2日(土)
10:00~15:00	10:00~15:00	10:00~15:00

オープンキャンパスメニュー(予定)

- ●オリエンテーション　●模擬講義
- ●体験実習　●ウエルカムランチ(無料)
- ●施設見学　●入試相談

オープンキャンパス参加のお申し込み・お問い合わせ先

交通アクセス／JR「銭函駅」から本学までの無料送迎バスを運行します。

☎0134-62-1945(入試広報課)

平成23年度 学生募集要項(概要)

■募集学部・学科／薬学部・薬学科(修業年限6年)
■入学定員／210人

一般入試

	前期 ※1		後期
	A日程	B日程	
募集人員	47人		3人
出願期間	平成23年1月7日(金)~1月26日(水)		平成23年2月7日(月)~2月14日(月)
試験日	平成23年2月1日(火)	平成23年2月2日(水)	平成23年2月19日(土)
試験地	本学、秋田、仙台、東京		本学
試験科目	数学、外国語、理科		

推薦入試

	公募制推薦	指定校推薦	系列校推薦
募集人員	25人	50人	30人
出願期間	平成22年11月1日(月)~11月12日(金)		
試験日	平成22年11月20日(土)	平成22年11月21日(日)	
試験地	本学		
試験科目	書類審査、小論文、面接	書類審査、面接	

AO入試

	同窓生子女	後継者育成	障がい者 ※2
募集人員	20人	15人	2人
エントリー受付期間	平成22年7月5日(月)~ 9月10日(金)		
出願許可発表日	平成22年10月15日(金)		
出願期間	平成22年11月1日(月)~11月12日(金)		
最終試験日	平成22年11月21日(日)		
試験地	本学		
試験科目	書類審査、面接		

大学入試センター試験利用入試

	前期	後期
募集人員	12人	3人
出願期間	平成23年1月7日(金)~ 1月31日(月)	平成23年2月7日(月)~2月28日(月)
試験日・試験地	本学独自の試験は実施しません。	
指定科目	数学、外国語、理科	

社会人入試

募集人員	3人
出願期間	平成22年11月1日(月)~11月12日(金)
試験日	平成22年11月20日(土)
試験地	本学
試験科目	数学、外国語、理科、面接

※1　一般入試前期成績優秀者に対する授業料半額免除制度について

一般入試前期(A・B日程)の受験者のうち、成績優秀者(各日程上位3名計6名)に対して授業料を半額免除する制度を新設いたします。免除者は、入学後も学業成績が上位1／3以上の場合、最大6年まで継続できる制度となっております。

※2　障がい者AO入試制度について

障がい者に対して高等教育の門戸を開くという社会の要請に応え、本学のアドミッションポリシーに基づき、障がいを持ちつつも、薬剤師として地域医療への貢献を志す人への門戸を開き、さらに一般学生が障がいを持つ学生とともに学び、支援することで、医療人として協調性と思いやり、そして健康を大切にする心を育んでいくことを目指して、本入試制度を新設いたしました。

本学に関するよりくわしい情報は、ホームページでご覧ください。 http://www.hokuyakudai.ac.jp/

PUBLIC RELATIONS MAGAZINE

桂

かつら [KATSURA]

北薬大情報
北海道薬科大学広報部
2010.10.1
Vol. 109

発行：北海道薬科大学
〒047-0264 小樽市桂岡町7番1号
TEL(0134)62-5111 FAX(0134)62-5161
URL http://www.hokuyakudai.ac.jp

平成22年度 北海道薬科大学白衣授与式 2010. 8. 18
1

2

3

4

5

1. 5年生の実務実習への意識づけを行う白衣授与式を挙行
2. 薬剤師業務のプレトレーニングを実施
3. 大盛況のうちに終了、学生同士の結束も強まった北薬祭
4. 自由科目セミナーで在宅医療を経験する学生
5. 中央機器センターを改修

CONTENTS

ノースカロライナ大学における研修留学を終えて／医療法人 北海道家庭医療学センターと連携協定を締結
北海道内の市立病院薬局長が本学を訪問／平成22年度「秋山記念生命科学振興財団研究助成」に採択される
平成22年度「伊藤医薬学術交流財団助成」に採択される／障がい者AO入試を設立／木立氏に博士学位を授与
松井礼子氏の特別講演会を開催しました／「北海道薬科大学模擬患者の会」懇親会を開催／前期授業アンケート結果がまとまる
自由科目セミナー「実践 地域医療」を夕張医療センターで実施／白衣授与式を挙行しました
6年制薬学教育における「実務実習」がスタートしました／実務実習直前の学内実習を実施／北薬祭報告／体育大会報告
実務実習訪問担当者ワークショップを開催／連携協定書、認証評価書を掲示
薬剤師養成教育に参加してみませんか～模擬患者(SP)募集のご案内～／丹保好子教授が薬物乱用防止活動
北海道薬科大学同窓会第33回定期総会・懇親会を開催／小樽日中友好協会第4回井戸端談義が開催される
父母後援会定期総会を開催／桂青会会則改正および平成22年度役員決定
改修工事を行いました／第1回・第2回オープンキャンパスを開催／平成23年度 学生募集要項

北海道薬科大学
HOKKAIDO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY SCHOOL OF PHARMACY

ノースカロライナ大学における研修留学を終えて

病態科学分野　准教授　　町田　麻依子

私は、2009年4月から1年間にわたり、米国ノースカロライナ州チャペルヒル市にあるノースカロライナ大学(UNC)に留学し、薬学部とその附属病院において研修を行ってきた。

チャペルヒル市は、総人口約45,000人の過半数以上が学生と教員・スタッフによって占められている文教都市である。シリコンバレーに次ぐ研究開発用工業団地の中心地として知られているが、自然も豊かであり、気候は温暖で、治安のよい街であった。

私は、薬学部の薬物療法学に関する教室(Division of Pharmacotherapy and Experimental Therapeutics)に籍を置き、薬剤師養成課程の教育と附属病院における薬剤師の活躍や教育について学んできた。この薬剤師養成プログラムの特徴は、緻密に計画された10カ月間(1・2年時に2カ月、4年時に8カ月)の学生実務実習と、実践的事前学習であり、これらは附属病院や薬局からの協力によって支えられていた。

学内の事前学習の内容は、患者の症例を教材とした実践的な事例を用いた教育がほとんどであった。学生は10名程度の少人数集団となり、患者の問題点を抽出して解決策を討論する、グループダイナミクスが効果的に繰り返されていた。私が見学した3年生の討論では、複雑な症例の課題について多くのエビデンスを各自が持ち寄り、盲目的に現行のガイドラインに従うのではなく治療の最適化について批判的に吟味してグループの総意をまとめていた。私は、時に、出題者の意図を遥かに超えた討論が繰り広げられている様を目の当たりにして感銘を受けた。このような方略は実際の医療現場においても実践されていた。

一方、UNC附属病院は記念病院を中心に、小児、女性、がん、神経科の5病院18診療科(725床)からなり、薬剤部は中央薬局、サテライト薬局(手術、小児、がん)、外来薬局、クリニック(がん治療支援、救急)から構成されていた。入院患者の治療は主治医制ではなく、医師と薬剤師のチームで毎日回診しながらきめ細かな治療を行っており、患者からは病院が教育機関である理解が得られていた。

薬剤師(86名)は病院経営担当者と、1)主に調剤薬鑑査を行う薬剤師、2)薬物療法認定薬剤師または、これに加えてより専門性の高い認定資格を持つ病棟専門の薬剤師、および3)処方鑑査と2)を補佐する薬剤師に3分化されていた。2)は特定の病棟で薬物療法チームのリーダーとして活躍していた。彼らは、教育に関する研修を積むことで、新人研修や相談役の役割も果たしており、学生の指導や形成的な評価、自律を促す教育方法に長けていた。彼らの教育を行う指導者は、ノースカロライナ州では処方権をも有しており、高度医療の実践において責任ある役割を担っていた。また、薬剤師研修生(19名)とテクニシャン(96名)制度も発達しており、合理的分業と協力体制が整っていた。一方、大学実務家教員は2)として現場と大学を行き来していた。また、その際に医療施設と大学の仕事の両立が可能となるように、双方からのサポート体制は万全であった。これらによって、薬剤師が高度な薬物療法マネージメントへ主導的に参画し、同時にゆとりと愛情を持って後人の育成をも行えているのだと感銘を受けた。

Dr.Dennis Williamsとビールでくつろぐ

米国では美味しいドラフトビールが安く楽しめた。私の指導者であるDr. Dennis Williamsもビールが好物であった。共にピルスナーグラス(ジョッキは見当たらなかった)でビールを飲みながら、「ここまでの環境整備に10年以上を費やした」という苦労話をよく聞いた。

我々も、一日も早く、日本の社会的背景に合致した、学生、教員、医療スタッフおよび患者にとって好ましい医療施設と大学の環境を整備しなくてはならないと痛感した。その為には医療現場と大学の双方向の建設的な努力と協力が必要である。

私は、今回このような貴重な機会を与えてくれた皆様に深く感謝している。

活発な討論が印象的だったグループダイナミクス

医療法人 北海道家庭医療学センターと連携協定を締結

北海道薬科大学は医療法人 北海道家庭医療学センターと教育・研究に関する連携協定を締結しました。平成22年7月9日（金）に本学にて調印式が行われ、医療法人 北海道家庭医療学センターの草場鉄周理事長と本学の大和田榮治学長が協定書にサインをしました。この協定により、本学地域医療薬学分野の古田精一教授を医療法人 北海道家庭医療学センターへ薬剤師として常駐派遣し、教育・研究の連携を進めていきます。

連携協定書を交わす草場鉄周理事長（右）と大和田学長（左）

北海道内の市立病院薬局長が本学を訪問

北海道市立病院薬局長会議（市立小樽病院 新岡正法薬局長主催）に参加した北海道内の市立病院の薬局長20名が、平成22年6月25日（金）に本学を訪問されました。本学では、臨床講義棟、OSCE対応グループ学習室などを案内した後、現在進行している6年制薬学教育を紹介しました。

本学の施設を見学する市立病院薬局長

平成22年度「秋山記念生命科学振興財団研究助成」に採択される

公益財団法人秋山記念生命科学振興財団の研究助成に、薬理学分野の佐藤久美教授が「AMPK活性化剤によるTNF-α誘導性インスリン抵抗性の改善作用機序」の研究テーマで採択されました。

平成22年度「伊藤医薬学術交流財団助成」に採択される

公益財団法人伊藤医薬学術交流財団の助成に、薬物治療学分野の今田愛也講師が「Pharm.Dコースにおける実務家教員の薬学教育に関する研究」の研究テーマで採択されました。

障がい者AO入試を設立

障がい者に対して高等教育の門戸を開くという社会の要請に応え、障がいをもちつつも、薬剤師として地域医療への貢献を志す人材を養成するため、新しい入試制度を設立しました。一般学生と障がいを持つ学生がともに学び、互いに医療人としての協調性を育んでいくことを目指しています。本学では、学生の受け入れのため、学内施設のバリアフリー化を進めています。

木立氏に博士学位を授与

本学に申請された木立由美氏(青森大学薬学部助手)に博士(薬学)が授与されました。学位記は平成22年8月2日(月)に学長室において授与されました。木立氏の論文題目は「無血清マウス胚系癌細胞の浸潤と転移における一酸化窒素及びマトリックスメタロプロテアーゼの関与」で、内容は以下のとおりです。

無血清マウス胚細胞にガン遺伝子を導入して作製した癌細胞を、感染・炎症類似条件であるリポ多糖とインターフェロン-γで刺激すると、一酸化窒素(NO)が著明に増加し、癌細胞の浸潤・転移が促進しました。高頻度肺転移性癌細胞をマウスに移植した動物実験でも、NOの増加と癌細胞の肺転移増加が相関しました。NOS阻害剤は、NO生成阻害と共に癌細胞の浸潤・転移を抑制することを示していますので、この阻害剤が癌転移を抑制する「抗癌薬」として開発される可能性を示しています。

松井礼子氏の特別講演会を開催しました

平成22年6月22日(火)に国立がん研究センター東病院薬剤部の薬剤師で、本学卒業生の松井礼子氏を講師としてお招きし、特別講演会(演題「がん専門薬剤師の活動について」)を開催しました。今回の特別講演会は、現在のがん専門薬剤師制度について、専門病院で働くがん専門薬剤師の役割を学ぶために企画されました。

がん専門薬剤師の役割について語る松井礼子氏

「北海道薬科大学模擬患者の会」懇親会を開催

平成22年5月18日(火)に、「北海道薬科大学模擬患者の会」懇親会を、銭函大山にて開催しました。本会は、平成20年度のOSCEトライアルに模擬患者としてご協力いただいた桂岡・銭函地区アパート組合の方々を母体とし、星置町内会はじめ本学近郊の住民の皆様により平成20年9月に発足しました。現在は、OSCEにおける標準模擬患者としてのみならず、コミュニケーション実習、演習における模擬患者としてご協力をいただいています。実習の少ない前期(4~8月)には、毎月1回の例会を開催して模擬患者トレーニングも行っています。懇親会には会員26名のうち15名にご参加いただき、コミュニケーション実習担当教員、模擬患者トレーニング担当教員らとともに親睦を深めることができました。

模擬患者の方々と楽しいひと時を過ごした懇親会

前期授業アンケート結果がまとまる

本学では、授業改善の手段として学生による授業評価アンケートを行っています。その結果とともに教員による授業改善のための目標・計画をWebで公表し、学内では自由に閲覧できるようにしています。実施できる授業については中間時点でもアンケートを行い、その後の授業改善につなげることを試みています。

学生の皆さんと教員との間で考え方の違いが指摘されていますが、アンケートの目的は唯一“授業改善”です。この共通理解がないと先に進むことはできません。教員がよりよい授業を提供し、学生の皆さんがよりよい授業を受けられる環境を作っていくために、授業アンケートを活用してください。

前期授業の中間、最終アンケート結果を集計し、学年ごとに平均値と最高値、最低値をまとめた結果を示します。授業アンケートへの教員のコメントは、すでにWebで公開しています。

本年度より“Good Lecturer賞”を設けました。学生の皆さんには、最終授業アンケートの際に、自分にとって良い授業を提供したと思う3名の教員を挙げ、また、その理由を記してもらいました。“Good Lecturer賞”は後期授業の結果と合わせて公表します。

●中間アンケート結果

		設　問	平均値
1年	問1	教員に熱意は感じられますか。	3.86
	問2	教員の教え方はわかりやすいですか。	3.19
	問3	教員の話し方は聞き取りやすいですか。	3.32
	問4	資料はわかりやすいですか。	3.38
	問5	授業の内容をわかりやすくする工夫が感じられましたか。	3.32
	問6	教員は学生が授業に集中できる雰囲気作りに配慮していましたか。	3.69
2年	問1	教員に熱意は感じられますか。	3.79
	問2	教員の教え方はわかりやすいですか。	3.57
	問3	教員の話し方は聞き取りやすいですか。	3.61
	問4	資料はわかりやすいですか。	3.67
	問5	授業の内容をわかりやすくする工夫が感じられましたか。	3.70
	問6	教員は学生が授業に集中できる雰囲気作りに配慮していましたか。	3.71
3年	問1	教員に熱意は感じられますか。	3.76
	問2	教員の教え方はわかりやすいですか。	3.58
	問3	教員の話し方は聞き取りやすいですか。	3.56
	問4	資料はわかりやすいですか。	3.64
	問5	授業の内容をわかりやすくする工夫が感じられましたか。	3.66
	問6	教員は学生が授業に集中できる雰囲気作りに配慮していましたか。	3.69
4年	問1	教員に熱意は感じられますか。	3.61
	問2	教員の教え方はわかりやすいですか。	3.38
	問3	教員の話し方は聞き取りやすいですか。	3.53
	問4	資料はわかりやすいですか。	3.43
	問5	授業の内容をわかりやすくする工夫が感じられましたか。	3.48
	問6	教員は学生が授業に集中できる雰囲気作りに配慮していましたか。	3.58

※5年次は授業スケジュールの都合により中間アンケートは実施しませんでした。

●最終アンケート結果

		設　問	平均値
1年	問1	私はこの授業内容を理解できた。	3.55
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	3.88
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	3.58
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	3.54
2年	問1	私はこの授業内容を理解できた。	3.51
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	3.79
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	3.55
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	3.60
3年	問1	私はこの授業内容を理解できた。	3.42
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	3.66
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	3.47
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	3.47
4年	問1	私はこの授業内容を理解できた。	3.45
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	3.70
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	3.47
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	3.50
5年	問1	私はこの授業内容を理解できた。	3.31
	問2	私はこの授業に積極的にまじめに取り組んだ。	3.62
	問3	私はこの授業から新たな興味や問題意識を持つことができた。	3.35
	問4	この授業を総合的に判断して満足できた。	3.31

自由科目セミナー「実践 地域医療」を夕張医療センターで実施

学生が自由に選択し受講できる自由科目セミナーの1つ「実践 地域医療」(科目担当：坂東勉准教授、伊東佳美講師)を、平成22年8月3日(火)から5日(木)にわたり夕張医療センターで実施しました。本セミナーには、北海道薬科大学の学生10名に加え、本学と連携協定を結んでいる天使大学の看護学科学生2名も参加しました。本セミナーは、高齢化が進んだことにより在宅医療が大きな割合を占めるようになった地域医療における、薬剤師・看護師の役割、および異業種連携について学ぶことを目的としています。将来的に医療チームを組むことになる薬学部と看護学部の学生が同時に学んだことにより、学習効果をさらに高めることができたと考えられます。研修では夕張医療センターの村上智彦理事長、永森克志医師をはじめとする職員と学生との活発な自由討論も行われ、実りの多い3日間となりました。

夕張医療センターの村上理事長の話を聞く参加者

白衣授与式を挙行しました

平成22年8月18日（水）、5年生148名に対し白衣授与式を挙行しました。白衣授与式は、病院および薬局での22週間にわたる実習を開始するにあたり、実務実習に対する意識を高めるために行われたものです。ここに、白衣授与式における大和田学長の告辞と5年生代表の伊花和宏君による宣誓文の全文（一部表現を改変）を掲載します。

実務実習への意欲を新たにした白衣授与式

学長告辞

本日、本学実務実習への参加が決まり、白衣と名札を授与された諸君、おめでとうございます。諸君は6年制薬学科第一期生として4年間の課程を修了し、薬学共用試験のCBTとOSCEに合格して本日のセレモニーに参加しているわけですから、その努力には心から敬意を表します。また、今回の実務実習の計画・実施に当たり、多大なご指導とお世話をいただき、さらに本日の式典に大変お忙しい中、御来賓として出席いただきました北海道病院・薬局実務実習地区調整機構委員長、北海道薬剤師会会長、北海道病院薬剤師会会長、および本学模擬患者の会の方々に心からお礼申し上げます。

さて、本日のセレモニーは、諸君が大学において習得した、薬剤師として必要な基礎的・応用的知識と技術を、実践的実習を通して薬剤師業務との係わり合いの中で生きたものとするために、医療の現場へ向かう出立の式ということになります。こうしたセレモニーは旧4年制薬学ではありませんでしたが、医師や看護師などの医療職の養成機関ではごく一般的なことであり、薬剤師養成を謳う6年制薬学コースが導入された機会に、薬系大学でも実施されることになったものです。ここで、もう少し詳しくこのセレモニーの趣旨について説明したいと思います。

第一の目的は、諸君がこれから実務実習を行う医療現場とは、病気に悩み苦しむ患者さんとそれを治療しケアする医療チームが格闘する修羅場であり、そこでは医療人としての自覚と倫理、コミュニケーション能力が強く要求され、医療人としての使命感と喜びが医療チームの各スタッフ間で共有されていることを良く理解し、そのように行動することの決意を新たにすることです。私達の大学のエンブレムには大学のロゴマークを囲む柳の葉が描かれています。これは、かの医聖と謳われたヒポクラテスがサリチル酸を含む柳の葉を鎮痛解熱に用いたという故事に由来し、薬学のシンボルを表すのみならず、本学の学生が医の倫理として有名な「ヒポクラテスの誓い」を守る医療人として育ってほしいという願いもこめられています。

第二の目的は、医療の現場で学ぶためには積極的でなければならないことを理解し、能動的・実践的に実習する決意をかためることです。大学で学んだ知識や技術を如何に生かすかを学ぶためには積極的態度が必要です。受動的に実務実習を続けることは苦痛以外の何物でもないでしょう。これからの実務実習では、医療チームの一員として患者さんの治療とケアに積極的に係わることを決意して下さい。

ここで、ついでながら、実務実習と薬剤師国家試験との関連にもふれてみたいと思います。私は厚生労働省の薬剤師国家試験制度検討委員会の委員をしていましたが、その検討の過程で6年制国家試験は薬剤師実務実習の成果が反映されるような制度、内容とすべきとの意見が多くあり、最近例示された具体案にもそうした傾向が認められます。要するに、諸君が実務実習中に遭遇する処方や症例がすべて出題対象となるわけです。そのため、実習を国家試験的観点から積極的に取り組むか、ただ受動的に進めるかで、結果は天と地ほどの差がつくでしょう。

若干、話が本日のセレモニーの趣旨からずれてしまいました。最後に、諸君にとって、これからの実務実習が本学の教育理念である「ファーマシューティカル・ケアの実践を通じて地域社会ならびに国民の健康と福祉の向上に寄与する薬剤師の養成を図る」を実現するための大きな成果となるように願います。さらに、医療現場で諸君を指導して頂く薬剤師の先生方は本学の非常勤講師ではありません。先輩薬剤師として、そのプロフェッションに従い、立派な後輩を育成しなくてはという使命

感で参加いただいているものです。どうかこのことを良く理解し、受け入れ医療施設においては諸君の一人々々が北海道薬科大学を代表する学生であることを強く自覚し、白衣の袖にある本学ロゴマークに恥じないよう、実務実習を無事終えられんことを本学教職員一同心から祈念して挨拶とします。

宣誓文　　5年　伊花 和宏

この度は、私達のためにこのような会を開催していただき、大和田学長をはじめご臨席くださいました方々に、心よりお礼申し上げます。

私達、薬学部6年制の第一期生は、多くの方々からいただいた温かいご支援のおかげで、無事に5年目の今を迎えることができ、間もなく実務実習へと旅立ちます。

実務実習において、私達はこれまで学んだことを実践に繋げる経験をするとともに、大学の授業では得ることのできない様々なことを学びます。また、今まさに激動の時代にある医療の世界に対して、現場の薬剤師の先輩方がどう対応し、どう道を切り拓いていこうとしているのかを目の当たりにすることで、現状のあり様を理解し、新時代に向けて私達がとるべき姿勢を深くじっくりと考えます。

ここで、実務実習に向けての、心構えを表明します。

●私達は、知識と技術及び人間性の向上のために最善の努力を尽くします。
●教わる者の立場をわきまえ、謙虚に、しかし積極的に実務に関わります。
●人道を最優先し、人間の尊厳を尊重することを第一とします。
●患者とその家族の話に傾聴し、中立性を保ちつつ、共感をもって関わります。
●守秘義務を果たし、個人情報を保護します。
●全てのスタッフと意思を疎通し、良好な関係を築くよう努めます。
●社会的な視点からも物事をとらえ、考え、行動します。
●倫理的、法規的に正しいと思われる原則の下で、常に行動します。

これらのことを決して忘れることなく、日々の実習を行います。

以上をもって、実務実習に向かう私達の誓いの言葉といたします。

実務実習に向けて、これまでご指導と準備を重ねて下さった、大学、北海道薬剤師会、北海道病院薬剤師会、北海道病院・薬局実務実習地区調整機構、北海道薬科大学模擬患者の会の皆様及び、私達を受け入れて下さる医療機関の皆様に、そしてこれまで直接的あるいは間接的に応援し続けてくれた家族や友人達に、深く感謝致します。どうか、これからも私達を支えて下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

6年制薬学教育における「実務実習」がスタートしました

6年制薬学教育における病院と薬局での11週ずつの実務実習が平成22年9月6日（月）から始まりました。他の大学では平成22年5月17日（月）（第Ⅰ期）から実務実習が開始されていますが、本学では学内での事前学習を充実させるために、第Ⅱ期からスタートするカリキュラムとなっています。

本年度の実務実習生は薬学共用試験に合格した148名で、約1/3ずつの学生が卒業研究を加えてローテーションします。

9月から行う実務実習施設数は、病院32、薬局48で、学生全員が北海道内の施設で実習を行います。

実習期間中は、実務家教員と施設担当教員が地域と施設ごとに割り当てられ、実習を行う学生および指導薬剤師と連携する体制がとられています。また、日々の実習は、東京理科大学を中心に本学も参加している「実務実習進捗ネットワークツール」により、振り返りと次の目標の設定が行えるようになっています。

実務実習直前の学内実習を実施

平成22年9月6日（月）から始まった5年次の実務実習に備え、実務に近い本格的な薬剤師業務のプレトレーニング（科目名：実務実習事前学習Ⅲ）が8月19日（木）より10日間の日程で実施されました。この実習では、患者受付、服薬説明やOTC販売業務などの薬局業務、また入院時面談、退院時指導や注射薬調製などの病院業務に加え、在宅医療や等身大の人形を用いたフィジカルアセスメントを取り入れるなど、最近注目されている新しい薬剤師業務にも対応しています。

実務実習のプレトレーニングが行われた

北薬祭報告

大学祭実行委員長　千葉　洋平

今回、大学祭実行委員長となり、大学祭の総轄及び運営を担当しました。

準備から本番まで、身に沁みて感じたことは、実行委員のみならず学生課の方々や業者さんを含む大学祭に関わった全ての人の協力なしには運営できなかったということです。

昨年の大学祭が盛況だったということもあり、今年はプレッシャーを感じながらの準備・運営でした。昨年の良いところは活かしつつ、今年らしさも入れるために、委託業者さんから企画まで金銭的なものも含めて全て見直し、納得のいく大学祭にしていこうと、みんなで協力して活動してきました。

その中でも、今回の大学祭のテーマであった『狂宴』にふさわしいゲストとして芸能人の江頭2:50さんをお招きしてのお笑いライブは大成功を収めました。学生はもちろんのこと、大学に来場して下さった今までに見たことのない数のお客さんがお笑いライブを楽しんでくれたことは、実行委員長として本当に嬉しかったです。

大学祭が終わって思うことは、何かを成し遂げるためには1人ではなくみんなの団結力・支えが必要だなということです。個々の力は弱くても目標やするべきことが明確になっていれば、どんなに困ってもどんなに辛くても、助けてくれる仲間とともに乗り越えていける、と感じさせてくれた大学祭だったと思います。

学生である以上本業は勉強です。しかし、どんなことであっても『人のため』に動くということは人間として必要な基本的スキルだと私は思います。その大切さ、必要性を教えてくれたのが今回の大学祭でした。実行委員長として辛い部分もありましたが、たくさんの人との関わりによって得られたものが多く、良い経験になりました。

うまく言い表すことができませんが、今回得られた刺激・経験を今後の大学生活に何かしらの形で活かせるよう努めていきたいです。

地域の方々とも触れ合った北薬祭

体育大会報告

体育大会企画局　局長　乙部　拓也

平成22年7月3(土)、4日(日)の2日間の日程で、体育大会を開催しました。

前日までは雨の予報が出ていましたが、当日は良い天気に恵まれ、充実した2日間を過ごすことができました。

体育大会では、1日目に玉入れとソフトボール、2日目にバレーボールとバスケットボールの4種目を行いました。大学祭と並行して開催したため、例年以上のチーム数の参加があり、運営する側にも熱が入りました。参加した学生は、休日・放課後を使って練習に励み、チームの団結・自信を高め、優勝への気持ちを高めていたことと思います。

そんな熱戦が繰り広げられた結果、見事、優勝・準優勝となったチームを紹介します。

【玉入れ】
優勝　　SAM-TAN
準優勝　鉄の魂forever Love
戦評：予選リーグから他のチームを圧倒し、決勝トーナメントでもその勢いが止まらなかった、教員を有するチームSAM-TANが優勝を手にしました。

【ソフトボール】
優勝　　筋トレ部のメンズ
準優勝　スポンサーはテゴシ
戦評：実力的には互角でしたが、チームの団結力で上回った筋トレ部のメンズが優勝しました。

【バスケットボール】
優勝　てごし! テゴシ!! TEGOSHI!!!
準優勝　竹江と坂本亮の親睦を深める会
戦評：どのチームもレベルが高い中、てごし! テゴシ!! TEGOSHI!!! が2年連続優勝を果たしました。

【バレーボール】
優勝　　POLPIC V
準優勝　焼肉BBQ
戦評：激戦ブロックを勝ち抜いたPOLPIC Vが優勝を手にしました。

熱戦が繰り広げられた体育大会

実務実習訪問担当者ワークショップを開催

平成22年6月19日(土)、本学において「実務実習訪問担当者ワークショップ」を開催しました。実務実習訪問とは、5年次実務実習において地区担当の実務家教員と施設担当教員が実習期間中に各施設を訪問し、指導担当薬剤師、学生との面談を通じて学生指導を行うものです。ワークショップには、実習先訪問の担当教員60名が参加し、具体的にどのようにして現場の指導薬剤師と協働して学生を指導するのか、どのような点に留意すべきか、訪問にあたって準備すべき資料などは何かについてロールプレイの観察、SGD(スモールグループディスカッション)をとおして学びました。参加した教員からは「ようやく実習先訪問のイメージがつかめた」「訪問にむけて準備すべき点が明確になった」等の声が聞かれました。

連携協定書、認証評価書を掲示

現在、本学は国内の3大学4医療施設と連携協定を、海外の3大学1施設と学術交流協定をそれぞれ締結し、教員の派遣、教育研究活動を行っています。また、財団法人日本高等教育評価機構による認証、および薬剤師認定制度認証機構からプロバイダーとしての認証を受けています。これら協定に関する協定書および認証評価書を学長室前の壁面に一括して掲示しました。

掲示板に収められた協定書および認証評価書

薬剤師養成教育に参加してみませんか？

模擬患者(SP)
募集のご案内

北海道薬科大学では、学生実習にご協力いただける模擬患者(SP)を募集しています。

SPとは、学生実習において、薬局窓口業務や病院のベッドサイドでの服薬指導などのロールプレイを行う際に、患者役を演じる人のことをいいます。

本学では、薬学教育6年制の4年次に行われる薬学共用試験の一つ、OSCE(客観的臨床能力試験)に対応するために、平成20年より「北海道薬科大学模擬患者の会」を発足しました。現在、約30名の方がSPとして登録されています。

模擬患者の会会員の方には、毎月1回開催する例会でSPとしてのトレーニングを積んでいただいた後、本学で行われるOSCE、コミュニケーション実習、演習に協力をお願いしております。

SPに興味のある方は、北海道薬科大学教務課(Tel. 0134-62-1901)までご連絡下さい。また、申し込みの際には、以下の点をご確認下さい。

※例会、実習、演習は主に平日の午後に行われます。各人のご都合に合わせて無理なく参加いただいていますので、安心してご登録ください。
※大学までは自家用車または公共交通機関でお越しください。
※OSCE、実習、演習にご参加いただいた場合は、薄謝をお渡しいたします。
※まだ薬学共用試験に合格していない薬学生のお子様がいらっしゃる方は、会員にはなれません。
※薬剤師の方は会員にはなれません。

丹保好子教授が薬物乱用防止活動

本学の丹保好子教授が積極的な薬物乱用防止活動を行っています。

平成22年6月22日（火）には天使大学看護栄養学部（札幌市）で行われた薬物乱用防止セミナーにおいて、丹保好子教授が「薬物乱用について知っておくべきこと～薬学的観点から～」と題して講演を行いました。対象は看護学科、栄養学科の2、3年生363名で、薬物乱用に関する基本的知識、依存性薬物の種類と作用メカニズム、乱用される医薬品に関して講演しました。天使大学と本学は平成20年に連携協定を締結し、本セミナーは連携に基づく活動の一環です。また、北薬祭（7月3、4日）では、天使大学看護学科2年生2名が「薬物乱用防止キャンペーンin北薬大」に参加しました。

平成22年7月16日（金）には旭川南高等学校において薬物乱用防止教室が行われ、丹保好子教授が「薬物の種類とその危険性について」と題して講演しました。1～3年生677名を対象に、依存性薬物の歴史や生体影響、若者がターゲットになる理由なども含めて講演し、生徒の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

北海道薬科大学同窓会第33回定期総会・懇親会を開催

本学同窓会第33回定期総会が、平成22年7月3日（土）に、本学418教室にて開催されました。開催挨拶の後、平成21年度活動報告、決算報告、引き続き平成22年度活動計画・予算案が示され承認されました。総会終了後、会場を図書館・医薬情報センター3Fに移し、懇親会が開催されました。懇親会には同窓生の他、本学教員、Homecoming 2010として開催された薬物乱用防止キャンペーンに参加した学生達も加わり、世代を越えた和やかな雰囲気で親睦を深めることができました。

和やかな雰囲気で親睦を深めた同窓会定期総会

小樽日中友好協会 第4回井戸端談義が開催される

平成22年9月4日（土）に本学において、小樽日中友好協会第4回井戸端談義が66名の参加者のもと開催されました。坂東英雄教授による講演の後、臨床講義棟、標本館、薬用植物園などの大学施設の見学が行われました。学生ラウンジではハーブティーがふるまわれ、参加者には、本学薬草園で栽培されたハーブ入りクッキーと横山文代さんの作画による薬用植物園の絵はがきが記念品として手渡されました。

標本館を見学する参加者

父母後援会定期総会を開催

平成22年度父母後援会定期総会が平成22年7月3日(土)に本学臨床講義棟で開催されました。

小池智彦父母後援会会長、大和田学長の挨拶に続いて、平成21年度事業報告・収支決算報告、会計監査報告が行われ、さらに平成22年度事業計画案・収支予算案、会則の変更の審議および役員の選出が行われました。

平成22年度の父母後援会役員は右記のとおりです。

定期総会に続き、教養セミナーが開催され、小池会長が「社会に貢献する薬剤師」と題して、学校薬剤師活動について講演しました。

●父母役員

会　長　　小池　智彦
副会長　　西本久美子
幹　事　　堀内　健一、大岩　義典
　　升井　純子、山口　倫子
　　我妻　尚広、佐藤　秀幸
　　神保美智子、浅田　裕子
監　事　　中村美智子、宗像　昌子

挨拶する小池会長

●教職員役員

副会長　　猪爪　信夫(学生部長)
幹　事　　丹保　好子
　　(総務担当:学生部主任)
　　土橋　幸恵
　　(総務担当:学生課長)
　　渡辺　泰裕
　　(学務担当:教務部長)
　　渡辺　昌美
　　(学務担当:教務課長)
　　渡辺　一弘
　　(就職担当:就職部長)
　　高橋　伸仁
　　(就職担当:学生係長)
　　田中三栄子
　　(財務担当:学生部主任)
　　高島　宏恭
　　(財務担当:総務課長)

桂青会会則改正および平成22年度役員決定

桂青会会則が改正され、委員会の運営機関として6つの局を設置し、各局に局長、副局長、会計を置くこととなりました。この改正に基づき、本年度の桂青会役員および委員が以下のとおり決定しました。

【学生委員】委員長:鵜野竜馬(3年)、
副委員長:阿部なつき(3年)、
書記:鈴木沙耶(2年)、上杉暢栄(1年)、
会計:浅山りん(2年)、竹花嘉仁(1年)
【監査員】村尾　優(4年)、
大久保文恵(3年)
【大学祭企画局】局長:千葉洋平(2年)、
副局長:河邊一太(1年)、
会計:古野衿花(2年)
【体育大会企画局】局長:乙部拓也(3年)、
副局長:小田竜太郎(1年)、
会計:勝又武士(1年)
【クラブ局】局長:浅野目尚平(3年)、
副局長:秋元大幸(1年)、
会計:高廣大知(1年)
【地域連携局】局長:新井諒也(3年)、
副局長:工藤沙季(2年)、
会計:宮川千珠(2年)
【障がい者支援局】局長:今江敏浩(1年)、
副局長:林 将羽(1年)、
会計:山本翔太(1年)
【薬物乱用防止局】局長:坂野峻亮(3年)、
副局長:大野凌也(1年)、
会計:南　慎史(1年)

改修工事を行いました

418講義室をシアター型の講義室に改修しました。座席数は、225席から148席へと少なくなりましたが、特別講義や論文発表会等を快適に行うことができます。

また、複数の部屋に分かれていた中央機器センター2階を機能的なワンフロアへ改修しました。廊下に面した壁の上部を透明なガラスにすることで開放的な部屋となりました。

改修した418講義室

第1回・第2回オープンキャンパスを開催

第1回・第2回オープンキャンパスが平成22年8月7日（土）、8日（日）に開催されました。両日ともまずまずの天気となり、高校生および保護者・同伴者が多数参加しました。参加者のニーズに応え、模擬講義を自由選択制とし、その他大学紹介、体験実習、薬用植物園ツアーと盛りだくさんのスケジュールでしたが、各企画を通して本学および薬学への理解を深めていただけたものと思います。

なお、第3回オープンキャンパスは平成22年10月2日（土）に開催する予定です。

参加者に好評だった体験実習

平成23年度 学生募集要項

■募集学部・学科／薬学部・薬学科（修業年限6年）
■入学定員／210人

一般入試

	前期 ※1		後期
	A日程	B日程	
募集人員	47人		3人
出願期間	平成23年1月7日(金)～1月26日(水)		平成23年2月7日(月)～2月14日(月)
試験日	平成23年2月1日(火)	平成23年2月2日(水)	平成23年2月19日(土)
試験地	本学、秋田、仙台、東京		本学
試験科目	数学、外国語、理科		

推薦入試

	公募制推薦	指定校推薦	系列校推薦
募集人員	25人	50人	30人
出願期間	平成22年11月1日(月)～11月12日(金)		
試験日	平成22年11月20日(土)	平成22年11月21日(日)	
試験地	本学		
試験科目	書類審査、小論文、面接	書類審査、面接	

AO入試

	同窓生子女	後継者育成	障がい者 ※2
募集人員	20人	15人	2人
エントリー受付期間	平成22年7月5日(月)～ 9月10日(金)		
出願許可発表日	平成22年10月15日(金)		
出願期間	平成22年11月1日(月)～11月12日(金)		
最終試験日	平成22年11月21日(日)		
試験地	本学		
試験科目	書類審査、面接		

大学入試センター試験利用入試

	前期	後期
募集人員	12人	3人
出願期間	平成23年1月7日(金)～ 1月31日(月)	平成23年2月7日(月)～2月28日(月)
試験日・試験地	本学独自の試験は実施しません。	
指定科目	数学、外国語、理科	

社会人入試

募集人員	3人
出願期間	平成22年11月1日(月)～11月12日(金)
試験日	平成22年11月20日(土)
試験地	本学
試験科目	数学、外国語、理科、面接

※1　一般入試前期成績優秀者に対する授業料半額免除制度について

一般入試前期（A・B日程）の受験者のうち、成績優秀者（各日程上位3名計6名）に対して授業料を半額免除する制度を新設いたします。免除者は、入学後も学業成績が上位1／3以上の場合、最大6年まで継続できる制度となっております。

※2　障がい者AO入試制度について

障がい者に対して高等教育の門戸を開くという社会の要請に応え、本学のアドミッションポリシーに基づき、障がいを持ちつつも、薬剤師として地域医療への貢献を志す方への門戸を開き、さらに一般学生が障がいを持つ学生とともに学び、支援することで、医療人として協調性と思いやりを育んでいくことを目指して、本入試制度を新設いたしました。

本学に関するよりくわしい情報は、ホームページでご覧ください。 **http://www.hokuyakudai.ac.jp/**

PUBLIC RELATIONS MAGAZINE

桂

かつら [KATSURA]

北薬大情報
北海道薬科大学広報部
2011.3.11
Vol.110

発行：北海道薬科大学
〒047-0264 小樽市桂岡町7番1号
TEL(0134)62-5111 FAX(0134)62-5161
URL http://www.hokuyakudai.ac.jp

1 釧路市および周辺町村から40名近くが参加した薬剤師教育研修会
2 帝京大学薬学部小佐野博史先生による講演会
3 184施設の採用担当者の方々が参加した就職相談会
4 第25回薬物乱用撲滅キャンペーンに本学学生が参加
5 「桂岡・銭函地区のゴミ拾い」を実施

CONTENTS

ニュージーランドにおける研修留学を終えて／「臨床薬理研究振興財団賞」学術論文賞を受賞／本学教員が高校生の薬物乱用防止活動を支援
本学大学院生が日本未病システム学会学術総会で研究奨励賞を受賞／日本薬学会北海道支部第135回例会で学生優秀発表賞を受賞
大学院修士学位論文発表会を開催／須野氏に博士学位を授与／「薬学教育協議会フォーラム2011」で学生が発表
平成22年度就職相談会、卒業生・在学生合同懇話会を開催／特別講演会、ワークショップを開催
病院・薬局とのランチョンセミナーを開催／岸田修一氏を客員教授に委嘱／薬剤師教育研修会を釧路で開催
薬学共用試験に4年生全員が合格／公認スポーツファーマシスト実務講習会での発表体験について
北海道工業大学とのSearching Infinite Aim(SIA)／「模擬患者(SP)募集のご案内」薬剤師養成教育に参加してみませんか？
最初の実務実習が無事に終了しました／第25回薬物乱用撲滅キャンペーンに本学学生が参加／退職教員
体験学習が無事に終了／本学奨学生(1年生)が決定／平成22年度父母懇談会を開催
「桂岡・銭函地区のゴミ拾い」を実施／各地の基幹病院に聞く・市立函館病院「地域医療における薬剤師の可能性」

北海道薬科大学
HOKKAIDO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY SCHOOL OF PHARMACY

ニュージーランドにおける研修留学を終えて

社会薬学系　地域医療薬学分野　村上 美穂

私は、「ニュージーランドのコミュニティーファーマシーにおける地域医療に根ざした薬剤師業務及び大学におけるセルフメディケーションの教育方法の研修」を目的に、2009年4月より1年間、ニュージーランドのオークランド大学薬学部John Shaw教授のもとで、薬局での研修に重点を置いた留学をさせていただきました。

ニュージーランドは大胆な行政改革、医療改革を断行したことでもよく知られています。日本の2／3の面積の国土の中に人口は1／30と人口密度が低く、主な産業が農業・酪農と観光であるという点、1769年にキャプテン・クックが訪れてから本格的な開拓が始まった比較的新しい国である点などが北海道と類似しており、ニュージーランドの医療制度は北海道の地域医療の参考となると思われました。

ニュージーランドは英連邦の一国であり、「ゆりかごから墓場まで」といわれたイギリスの福祉政策を踏襲して、ニュージーランド国籍および永住権保有者の医療費は無料でした。しかし、1972年以後財政赤字・医療費増大に苦しみ、1987年から数回の医療改革を実施しました。現在は全国に21ある地区保健委員会（District Health Boards: DHB）の監督・指導の下、一般開業医（General Practitioner：GP）を中心とした地域医療が行われています。薬局は、繁華街の店舗を除き、GPやX線撮影所とメディカルセンターを形成している場合が多く、自動的に薬局もかかりつけ薬局となります。また、各DHBには公立病院が少なくとも一つあり、そこでの治療費はすべて国が負担しますが、救急の場合を除いてGPからの紹介が必要です。日本のような健康保険制度はなく、政府が医療費の助成を行うため、政府は疾病を予防することにより医療費増大の抑制を図ろうとしており、薬局でも体重や腹囲を計測しての減量相談など地域住民の疾病予防のためのサービスを提供しています。

仮卒業式にて憧れのガウンを着てShaw教授と記念撮影

薬局における薬剤師の業務は、日本とほとんど変わりません。形態は日本でいう調剤併設ドラッグストアと同様でした。薬局では、在宅療養者やナーシングホームへの医薬品の配達や薬剤師による訪問薬剤管理指導も行っていますが、一回ずつの料金設定で回数制限はない等、日本との相違点がありました。その中でも大きな違いは、症状が安定していて処方変更がない患者さんへの投薬を薬剤師の指示によりテクニシャンが行っていた点です。そこで「テクニシャンと薬剤師の業務内容にどんな違いがあるのですか」と薬剤師に質問をしたところ、「薬や病気について相談する相手は、知識が豊富な薬剤師です。」と答えてくれました。

ニュージーランドでも処方せんがなくては入手できない処方せん薬と、処方せんがなくても買えるＯＴＣ薬があります。さらにＯＴＣ薬には、薬剤師でなければ販売できないPharmacist Only Medicineがあります。Pharmacist Only Medicineの販売にあたっては薬剤師が購入者の住所と氏名を聞き取り、さらに症状やアレルギー、併用薬などをチェックして記録します。日本では第1類医薬品を販売する場合、薬剤師が書面を用いた情報提供を行うことが義務付けられていますが、購入者の氏名、住所を記録する義務はありません。また、5月から11月までの冬季間に限り、処方せん薬のタミフルを処方せんがなくても、薬剤師の問診により販売することができるなど、薬剤師に対する信頼の大きさを感じました。

薬学部の中の模擬薬局実習室（ドライ・ラボ）

薬剤師を育成する薬学部はオークランド大学とオタゴ大学の2つしかなく、両校とも定員は約100名です。薬学部の年限は4年で、卒業後に11カ月間のインターンを経て薬剤師として登録されます。大学での講義は、パワーポイントを用いて一学年全員に行われますが、半分ずつに分けてのチュートリアル、更に20人程度のワークショップ、それに続く実習と関連付けて学習できるよう組み立てられている点は、本学のカリキュラム編成においても参考になると思いました。本学でも、現場の薬剤師にワークショップや実習に参加していただいていますが、オークランド大学では、より多くの薬剤師が非常勤教員として協力している点が印象的でした。

地域単位で患者中心の医療を行うために、どのように信頼される薬剤師を育成しているのかをニュージーランドのシステムを通じて学ぶことができました。

「臨床薬理研究振興財団賞」学術論文賞を受賞

本学の猪爪信夫教授による論文が、臨床薬理研究振興財団賞学術論文賞を受賞しました。授賞式および受賞記念講演は、平成22年12月2日（木）に第31回日本臨床薬理学会年会において行われました。受賞論文は以下の通りです。

著　者：Nobuo INOTSUME, Shoji FUKUSHIMA, Toru HAYAKAWA, Shuichi KISHIMOTO, Hitomi YANAGUIMOTO, Takaki TODA, Nobuyoshi GOTO and Sumio IMAI
論文名：Pharmacokinetics of Ephedrine and Pseudoephedrine after Oral Administration of Kakkonto to Healthy Male Volunteers（葛根湯を健常男性成人に経口投与後のエフェドリンおよびプソイドエフェドリンの体内動態）
雑　誌：「臨床薬理」、40巻3号、79-83頁、2009年

受賞の盾を受け取る猪爪信夫教授

本学教員が高校生の薬物乱用防止活動を支援

本学の丹保好子教授が、平成22年10月12日（火）に小樽潮陵高等学校の定時制生徒25名を対象とした薬物乱用防止教室に、講師として参加しました。さまざまな年代の生徒の皆さんが熱心に耳を傾け、最後に代表者の宮田歓喜君が薬物乱用防止の誓いを宣言しました。宣言の内容は以下のとおりです。

薬物乱用防止宣言
本校定時制生徒は、薬物乱用の恐ろしさを正しく理解し、薬物の誘惑に負けないように努めます。
そして生徒全員が薬物乱用の防止のために努力することを宣言します。
平成22年10月12日　生徒代表　生徒会長　宮田　歓喜

本学大学院生が日本未病システム学会学術総会で研究奨励賞を受賞

平成22年11月13日（土）・14日（日）に開催された第17回日本未病システム学会学術総会（那覇市）において、本学大学院修士課程生物薬学専攻2年の油井優君の発表した「健康食品の適正使用に関する研究：エゾウコギと医薬品の薬物動態学的相互作用」が一般演題「未病と代謝」において研究奨励賞に選ばれました。

研究奨励賞を受賞した油井優君の発表

日本薬学会北海道支部第135回例会で学生優秀発表賞を受賞

平成22年11月27日（土）開催の日本薬学会北海道支部第135回例会において、本学の2名の大学院生が学生優秀発表賞を受賞しました。受賞者と演題は次のとおりです。

生物薬学専攻博士後期課程1年　柴田倫人
単球遊走に対するシンバスタチンの影響

生物薬学専攻修士課程1年　鈴木 清野佳
エゾウコギエキスの抗糖尿病作用に関する研究

学生優秀発表賞を受賞した鈴木清野佳さん（左）
柴田倫人君（右）

大学院修士学位論文発表会を開催

大学院修士課程2年生の修士論文発表会が、平成23年1月28日（金）、29日（土）の2日間にわたって開催されました。発表者は生物薬学専攻8名、臨床薬学専攻9名で、発表後の質疑応答では活発な討論が行われました。

発表を行う大学院生

須野氏に博士学位を授与

本学に申請された須野学氏（旭川医科大学病院薬剤師）に博士（薬学）が授与されました。須野氏の論文題目は、「病院薬剤部におけるTDM業務の活用と問題点の改善」であり、内容は以下のとおりです。

薬剤師の日常的なTDM業務の対象となっていない医薬品の精密な体内動態解析法を構築することを目的として、抗がん薬パクリタキセルと超短時間作用型β_1受容体遮断薬ランジオロールを選択し、HPLCを用いた簡便で汎用性の高い血中濃度測定法を開発しました。また、これまでは正確な検出が困難であった、代謝酵素CYP2C9の重要な遺伝子多型の一つである*CYP2C9*3*における、精度の高い検出法を開発しました。これらの成果は、ファーマシューティカルケアを実践する臨床現場の病院薬剤師が、TDMの適応範囲を広げ、さらにそれを精密化するための身近なツールを提供するものです。

博士学位を授与された須野学氏

「薬学教育協議会フォーラム2011」で学生が発表

平成23年2月12日（土）、慶應義塾大学芝共立キャンパスにおいて、薬学教育協議会フォーラムが開催されました。フォーラムのテーマは「初年度実務実習の成果と課題～学生からのフィードバック～」で、薬系大学・薬学部の教員と学生、および職能団体の薬剤師が参加しました。本号では、フォーラムに出席した本学5年生の髙橋涼太君の感想を掲載します。

発表する髙橋涼太君

フォーラムでは全国の薬学生と意見交換をすることができました。実務実習については他大学の学生の皆さんと共通する意見が多く、特に受入実習施設による実習内容の差が問題視されていました。

本学は5年前期に事前学習を行い、実習開始時期を他の大学より半年遅らせているのが特徴です。各大学の成果を披露するポスター発表では、本学の事前学習に注目が集まりました。「OSCEより臨床に近いことを学習し、他職種を理解する上での事前実習も行う」と説明すると、全国の学生および教員から「今後、必要になることだ」と高い評価が得られました。

北海道薬科大学 5年　髙橋　涼太

私たちは5年前期に事前学習をし、実務実習を行った全国で唯一の学生です。実務実習を行う立場からは、他大学より時間的遅れが出るなどの不安があるのは事実です。しかし、全国から高い評価を得る内容を唯一こなした学生であることに間違いはありません。今回のフォーラムに参加して、6年制教育はまだ始まったばかりであり、今後を築き上げていくのは私たちなのではないかと思いました。

平成22年度就職相談会、卒業生・在学生合同懇話会を開催

平成22年11月26日(金)に、本学にて就職相談会が開催されました。開局薬局110、病院61、製薬企業・医薬品卸業・治験関係企業・官公庁13の計184施設の採用担当者の方々に参加していただき、本学学生219名がそれぞれのブースで面談し、情報や意見を交換しました。当日行われたアンケートでは、本学の学生に対して、『マナーが良い』、『しっかりとした目標をもっている』、『誠実である』などのコメントをいただきました。また、参加施設の48%が求人数を増加する予定であると回答しました。

同日夜には北海道薬科大学同窓会主催の卒業生・在学生合同懇話会が、札幌全日空ホテルで開催され、卒業生72名、在学生121名、本学教員25名が参加しました。在学生は各職種で活躍する卒業生からアドバイスを受けたり、就職に関して不明な点を相談するなど活発な懇談が行われていました。

就職相談会の後に行われた合同懇話会

特別講演会、ワークショップを開催

平成23年2月15日(火)、本学教員を対象とした特別講演会およびワークショップを開催しました。午前は「多肢選択式問題作成のポイント」と題し、帝京大学薬学部の小佐野博史教授を講師にお招きし、新制度の薬剤師国家試験対策はもとより通常の授業や試験等に活用できる多肢選択式問題を作成するうえでのポイントを、わかりやすい講義と例題演習を通じて学びました。午後からは一つの症例に基づいてあらかじめ作成した、複数領域にまたがる多肢選択式問題に対し、グループディスカッションを通じてブラッシュアップを行いました。参加者からは「大変わかりやすい講義だった」、「すぐにでも活用できる内容であった」といった感想が聞かれました。

グループディスカッションのようす

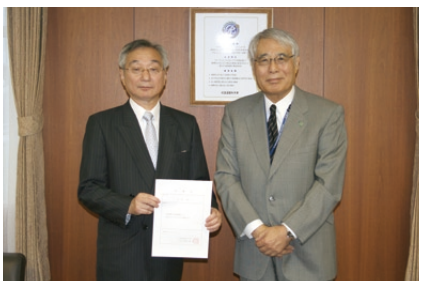
病院・薬局とのランチョンセミナーを開催

平成23年1月17日(月)～19日(水)、医療関連施設とのランチョンセミナーを開催しました。このセミナーは、本学学生を対象に医療施設(病院1、薬局5)の方々に各々の業務内容や地域社会における役割などを解説していただくもので、昼休みの時間を利用して行われました。参加した学生にとって、今後の就職活動や進路を考える上で極めて有意義なセミナーとなりました。

企業担当者による説明のようす

岸田修一氏を客員教授に委嘱

長年にわたり厚生労働省で幅広い仕事に関わってきた岸田修一氏に、平成22年10月1日(金)より本学客員教授を委嘱しました。岸田氏には、「薬剤師養成教育」に関して氏の広範な知識・見識を基とした助言・指導をいただいています。また10月25日(月)には、本学教員を対象とした岸田客員教授の講演会「薬剤師を取り巻く現状と生涯学習の重要性」が開かれました。


客員教授に就任した岸田修一氏

薬剤師教育研修会を釧路で開催

本学の薬剤師生涯研修プログラムの一つ『薬剤師教育研修会 薬剤師アップトゥデート講座』が平成22年9月18日(土)に釧路で行われました。講師は本学の薬物治療学分野の大滝康一准教授、テーマは「持参薬チェックにおける薬剤師の役割」でした。病院薬剤師の標準的業務となりつつある持参薬チェックについての取り組みを通して薬剤の適正使用のあり方、おくすり手帳の重要性について取り上げ、病院だけでなく保険薬局薬剤師にも通ずる、薬物療法のリスクマネージャーとしての薬剤師のあるべき姿を再認識するよい機会となりました。

三連休の初日であったにも関わらず、釧路市および周辺町村から40名近くが参加し、実務実習中の5年次学生の姿も見られました。研修会終了後に予定されていた同窓会は、他大学卒業生も加わって親睦会として催され、釧路地区の薬剤師の交流が深まりました。

なお、道内の各地域で活躍する薬剤師と広く連携を深めていく意味で、今後、薬剤師生涯研修プログラムの地方都市での開催を多く予定しています。

薬学共用試験に4年生全員が合格

平成22年度薬学共用試験が終了し、本学の4年生全員がCBT、OSCEに合格しました。

		実施日程	受験者数	合格者数	合格基準
平成22年度 薬学共用 試験結果	CBT(知識に関する試験)	平成22年12月16、17日	195	195	正答率60%以上
	OSCE(態度・技能に関する試験)	平成23年1月22、23日	195	195	細目評価70%以上　概略評価5以上
	共用試験全体		195	195	

公認スポーツファーマシスト実務講習会での発表体験について

5年　丸山　将裕

平成22年12月5日(日)に、札幌市の北海道薬事会館で公認スポーツファーマシスト実務講習会がありました。公認スポーツファーマシストとは薬剤師が取得できる資格制度で、スポーツにおけるドーピングを防止することを主な活動としており、2009年から日本アンチ・ドーピング機構が認定しています。その講習会で私は、スポーツファーマシストの方やスポーツファーマシストを目指す方々を対象に、「6年制薬学生がドーピング防止活動を通して感じたこと」をテーマに発表させていただきました。

私は、5年次の特別講義で「スポーツにおける薬剤師の活動」についてご講演くださった本学の卒業生でもある北海道大学病院副薬剤部長・笠師久美子先生のご紹介で、ツールド北海道(自転車のロードレース)のドーピング検査補助業務を5日間担当させていただきました。その経験により、私のドーピングに対するイメージが変わりました。私は、ドーピングで陽性となる人は故意に禁止物質を摂取していると思っていたのですが、実際は、たまたま飲んだ薬の中に禁止物質が入っていたために違反となってしまう方がほとんどだということを知りました。講習会では、こういう方たちを1人でも多く減らすために薬剤師ができると感じたことや、この経験の中で気づいたことを中心に発表させていただきました。発表では、自分の考えを大勢の方々に伝えることの難しさを感じたのと同時に、貴重な経験をさせていただいたという嬉しさを心に刻むことができました。私は病院薬剤師を目指しており、将来は病院内が仕事場になると考えていました。しかし、今回の体験で病院の外でも薬剤師という職務を存分に活かせることを改めて知り、将来の職域に対する視野が広がりました。

講習会の場では、新しいことに挑戦しようとしている薬剤師のみなさんを目の当たりにし、「薬剤師免許の取得がゴールではない。そこからがやっと個々人の目指す薬剤師への始まりである」ということを強く感じました。大学内にいるとどうしても国家試験合格という目標が重きになりがちなのですが、他の学部より修業年限が2年長い意味を深く考え、学ぶことはもちろん、いろいろな人との出会いや遊びを通じて、薬剤師免許の取得についてだけではなく、さらに先の目標を掲げられたらいいなと思います。

最後に、このような貴重な経験を得る機会を与えてくださった笠師先生に心からお礼申し上げます。

ドーピングと薬剤師の役割について発表する丸山将裕君

北海道工業大学とのSearching Infinite Aim（SIA）

4年 吉村 和晃

平成22年9月19日（日）、北海道薬科大学において、第2回SIA（Searching Infinite Aim）が開催されました。この会は、本学と北海道工業大学（工大）の学生・大学院生が、お互いの専門の立場から様々な医療テーマについてディスカッションするものです。今回の参加者は、本学学生9名と工大臨床工学科学生・院生6名の計15名でした。

私は本学で科学研究部に所属しており、猪爪教授、戸田准教授のもとで薬物代謝に関わる研究に携わっています。また臨床工学技士を目指す友人がいることから、透析患者における薬物動態に興味をもっていました。そこで「透析と薬」というテーマで、透析療法の臨床的意義、透析患者における病態生理の特徴、透析患者に対する薬物治療について発表し、透析患者における薬物選択の考え方について問題提起しました。その後のディスカッションでは本学学生・工大生双方から意見交換があり、お互いの透析に関する知識を高めることができました。

本学において臨床工学技士の業務内容を知る機会はほとんどありません。SIAでは、工大生と直接医療テーマについてディスカッションすることにより双方の知識を共有し、理解することができました。将来、患者治療に対する業務連携に役立つと考えています。

第3回SIAは平成23年5月21日（土）に北海道工業大学で開催予定です。興味のある方の連絡をお待ちしております。

連絡先：SIA 副代表 吉村
h.yakou8@gmail.com

学生同士がディスカッション

薬剤師養成教育に参加してみませんか？

模擬患者（SP）
募集のご案内

北海道薬科大学では、学生実習にご協力いただける模擬患者（SP）を募集しています。

SPとは、学生実習において、薬局窓口業務や病院のベッドサイドでの服薬指導などのロールプレイを行う際に、患者役を演じる人のことをいいます。

本学では、薬学教育6年制の4年次に行われる薬学共用試験の一つ、OSCE（客観的臨床能力試験）に対応するために、平成20年に「北海道薬科大学模擬患者の会」を発足しました。現在、約30名の方がSPとして登録されています。

模擬患者の会会員の方には、毎月1回開催する例会でSPとしてのトレーニングを積んでいただいた後、本学で行われるOSCE、コミュニケーション実習、演習に協力をお願いしています。

SPに興味のある方は、北海道薬科大学教務課（Tel.0134-62-1901）までご連絡下さい。また、申し込みの際には、以下の点をご確認下さい。

※例会、実習、演習は主に平日の午後に行われます。各人のご都合に合わせて無理なく参加いただいていますので、安心してご登録ください。
※大学までは自家用車または公共交通機関でお越し下さい。
※OSCE、実習、演習にご参加いただいた場合は、薄謝をお渡しいたします。

前号の募集案内において、まだ薬学共用試験に合格していない薬学生のお子様がいらっしゃる方、薬剤師の方は会員になれない旨のお知らせをいたしましたが、こちらは誤りでした。
どなたでも会員としてご参加頂けます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最初の実務実習が無事に終了しました

北海道薬科大学は、薬学共用試験後に充実した事前学習を行い、その後実務実習を実施するカリキュラムを編成しています。平成22年9月6日（月）から11週間にわたる長期実務実習が始まり、11月19日（金）に最初の実習が終了しました。この間、地域を担当する実務家教員と施設を担当する実務家教員を除く全教員が施設を訪問し、「実務実習ネットワーク進捗ツール」によって学生の実習状況の把握に努めました。施設の指導薬剤師の皆様には多大なご協力をいただき、大きなトラブルもなく無事に終了しました。

●病院実習報告：北海道消化器科病院（札幌）

5年　岩井　麻登佳

実習前半は、主に調剤業務を学びました。薬が商品名で並んでいるので一般名が全然わからず、調剤していても処方内容が理解できなかったので不安でしたが、その都度自分で調べるなどし、1カ月を過ぎた頃から調剤業務がスムーズにできるようになってきました。また、高カロリー輸液や抗がん剤の混注の作業時間が多く、いろいろな医薬品に実際に触れることができました。

実習後半には病棟業務が始まり、初回面談や投薬、薬歴管理、持参薬の鑑別など病棟業務の一連の流れを体験しました。その中でも、一人の患者さんの入院から退院までに関わったことはとても貴重な経験になりました。患者さんの症状の経過を知ることで、必要な検査や処方薬の追加・変更理由がわかり、その情報をもとに患者さんに適切な服薬指導ができるようになりました。

退院される頃には、患者さんとの距離が近くなっていたと感じました。

他にも手術や検査を見学するなど、病院実習ならではの経験をすることができ、とても勉強になりました。

まだ自分が将来どのような薬剤師になりたいのか決めていませんが、この経験を生かして今後いろいろな就職説明会に積極的に参加し、自分が目指す薬剤師像を見つけられたらと思っています。

●病院実習報告：帯広厚生病院

5年　池田　静奈

この病院は外来処方せんも扱っており、調剤室には朝から夕方近くまで処方せんが流れてきていました。その上、薬剤師が不足しているということで、11週間もお世話になるのは迷惑なのではないかと不安でしたが、職員の皆さんはとても優しく、仕事の手を止めてていねいにいろいろと教えていただき、とても有意義な実習となりました。

調剤室やIVH・抗がん剤調製室では、一連の業務を通して過誤防止を目的として行われている工夫を知ることができました。これらの業務では、実際に患者さんに投与する薬を調剤するため、緊張感のある日々でした。

病棟では薬剤管理指導業務に同行し、実際に服薬指導をする機会もありました。ここでは、服薬指導よりも投薬後の経過をよく見ることが大切だと強く感じました。特に痛み、不眠、便秘など、改善に薬が重要な役割を担う症状については、積極的に患者さんの所に足を運んで状態を確認することが大切だと知りました。

また、患者さんが薬剤師にいろいろと相談されるところを間近に見ることができ、薬剤師の存在意義を改めて感じました。

他にも、院内製剤の調製、医薬品の管理、DI業務、治験など、多くの内容を学ぶことができました。

新薬や薬の適応外使用など、大学で学ぶことができない内容もたくさんありましたが、一方で基本的な知識が身についていないことも感じました。これまで以上に勉強に励みたいと思います。

●薬局実習報告：永山中央薬局（旭川）

5年　里　利恵子

事前に大学で多くのことを学んできたとはいえ、開始当初は分からないことの連続で、大変緊張してしまいました。徐々に薬局で学ばなくてはいけないことが少しずつ見えてくるようになり、最終的にはとても充実した実習となりました。

実務実習では、調剤の基本的業務はもとより、患者さんへの関わり方について多くのことを学びました。服薬指導では、患者さんに正しく薬を飲んでもらうためには、分かりやすく説明する工夫が必要だということがわかりました。また、在宅医療の業務についても深く学ぶことができ、患者さんへの服薬指導だけではなく、残薬をチェックし、どうすれば飲み忘れや拒薬を減らせるのかを考えること、他のスタッフと連携することの大切さを知ることができました。

様々な業務を経験したことで、「患者のＱＯＬ向上」を考えることが薬剤師の役割の基盤としてとても重要だと実感しました。患者さんに対して何ができるのかを考え、患者さんの生活を少しでも良くするために行動していくことが、薬剤師として何より大切なのではないかと思います。

実習を始めるまでは２カ月半は長いと感じていましたが、終わる頃にはあっという間だったという印象です。今後、この実習で学んだ様々な事柄をしっかり胸に止め、薬剤師になるための勉強をし、成長していきたいと考えています。

●薬局実習報告：フォルテ調剤薬局（札幌）

5年　竹江　亮博

この報告では、大学での事前学習で感じていた疑問が解けたことについて書こうと思います。事前学習では、調剤を行うときに必ず薬品名を声出し確認していました。しかし僕は、各々の薬局で違いはあると思いますが、実際の業務で声出し確認を義務付けている薬局はあまりないと思っており、なぜ、声出し確認を事前学習で行ってきたのかという疑問をもっていました。

フォルテ調剤薬局では、ほとんどの薬剤師の方が声出し確認を行っていました。今回、現場での調剤を体験したことで、声出し確認を行うことにより、特に忙しい時間帯のミスを減らすことができるということがわかりました。事前学習では、単に評価者に自分が医薬品名を確認していることを知らせるために声出し確認を行うと考えていましたが、現場では、実際にピッキングする薬剤が本当にその薬剤で良いのかを自己鑑査する意味で、声出し確認はとても有効な方法でした。

このように、事前学習で感じていた疑問点は数多くありましたが、実習をとおしてわかったことは、事前学習で学んだことは現場での業務の基本となっているということでした。事前学習と現場での業務とのギャップを感じることもありましたが、事前学習の内容が間違っていると考えるのではなく、その基本を活かし、現場の業務に適応させていくことが大切であると思いました。そのためにも、事前学習においては、なぜその作業を行うかという意味を考え取り組むことが大事だと感じました。

第25回薬物乱用撲滅キャンペーンに本学学生が参加

平成23年1月15日（土）に小樽市長崎屋で第25回薬物乱用撲滅キャンペーン（小樽薬剤師会主催）が行われました。本学1年生2名、3年生3名、さらに小樽市内の保険薬局で実務実習中だった5年生2名が、市民に啓発グッズを手渡すなどのキャンペーンに参加しました。

退職教員

●坂東教授が定年退職

本年3月31日をもって、坂東英雄教授（医薬化学分野）が定年退職します。坂東教授は、昭和51年4月に薬化学研究室の助手として着任し、その後講師、助教授を経て、平成2年に化学研究室の教授、さらに薬用資源学研究室の教授となりました。この間、校務役職として基礎薬学系主任、学生部長、入試部長、就職部長、薬用植物園長などを歴任しました。教育においては、主に「化学」「物理化学」「有機化学」などを担当し、研究においては、「アイヌ有用植物の成分研究」を中心に多くの業績を残しました。

坂東英雄教授

●金田准教授が定年退職

本年3月31日をもって、金田　繁准教授（薬理学分野）が定年退職します。金田准教授は、昭和52年4月に毒物学研究室の助手として着任し、その後薬物療法学研究室、薬理学研究室へと配属研究室が異動になり、この間に講師、次いで准教授と昇格しました。教育においては、主に「機能形態学I」を担当し、また校務においては長く実験動物センターの主任として尽力されました。研究においては、「アポトーシス細胞死の機序解明」をテーマとしました。

金田　繁准教授

●金岩講師が退職

本年3月31日をもって、薬学教育系の金岩孝夫講師が退職します。金岩講師は、昭和51年に薬化学研究室の助手として着任し、その後薬学教育センターの所属となり講師に昇格しました。熱心に学生教育にあたられた一方で、「薬学教育の改善に関する調査研究」を主なテーマとして研究活動に従事されました。

金岩孝夫講師

体験学習が無事に終了

平成22年10月に1週間の2年次、3年次の体験実習が行われました。本号の桂では、学生の感想文を抜粋し掲載します。

●実習施設：札幌市清田区　特別養護老人ホーム　清幌園

2年　奥野　麻衣

利用者様の中には認知症の症状が強く、「物がなくなった」、「早く帰らないといけない」、「どうしたらよいかわからない…」など、不安な気持ちを現す方が何人もいらっしゃいました。実際に起こっていることではなくても、その方々の頭の中では起こっていて、とても困惑し、悲しみ、苦しんでいる表情を見て何とかして力になりたいと思うようになりました。この共感する気持ちは施設を訪問し、実際にたくさんのご利用者様と接したからこそ芽生えた気持ちでした。教科書や誰かに教えてもらった知識ではなく自分の目で介護・福祉、医療の現場を体験して、さらに考えることは非常に大切なことだと思います。

また今回、マニュアル通りではなく、患者様一人ひとりに合わせたコミュニケーションができる薬剤師が求められていることを知り、自分も将来、患者様に画一的に対応するのではなく、一人ひとりには個性があると考えて向き合えるような薬剤師になりたいと思いました。

●実習施設：岩見沢市　介護老人保健施設　ゆあみーる

2年　齋藤　真衣

実習に行く前は、介護施設では利用者さんは主に介護職員とだけ接しているものだと思っていたが、実際は医師や看護師、ケアマネジャーや理学療法士、作業療法士、管理栄養士など、様々な職種の人達が一人の方をケアするために密接に関わっていることに驚いた。また、スタッフが一人ひとりの状態をファイルに詳しく記入したり、申し送りをして情報の共有を大切にしている状況を見聞きし、チーム医療のあり方を学んだ。

介護する時も利用者さんの望むことをすべてして差し上げるのではなく、身体の状態をよく把握し、残存能力を上手く活かすことで、利用者さんのこれからのために現状を保ったり改善を図る、あくまで自立のための介護の重要性を感じた。そのためにも、相手とかかわる時には一人の人間として尊重することや、チーム医療の担い手として、本人やご家族、医療スタッフと情報を共有し、お互いに協力しながら目標に向かって気持ちを一つにすることが大切だと感じた。

●実習施設：稚内市　特別養護老人ホーム　富士見園

2年　白田　このみ

実習に行く前は、自分は介護もできないし、実習に行って何をすればよいのだろう、行く意味はあるのか、と考えていたが、実習を終えた後では自分の中で何かが変わったように思える。

最初は介護士の役に立とうと頑張っていたが、自分は将来的には介護する立場ではないことが疑問に残っていた。それからよく考え、介護士の役に立とうとするよりも利用者さんのために何かをすることが今、自分がすべきことだと気づくことができた。自分の意識を変える前と後では同じように利用者さんと接していても、感じるものや気づくこと、考えることが大きく変わったように思う。また、チーム医療の担い手となるうえで、介護士の仕事を間近で見学できたことは大きな収穫となり、この実習で得た貴重な経験を活かして、多方面のことを考えられる薬剤師になりたいと強く思えるものになった。

●実習施設：石狩市　応用医学研究所

3年　佐藤　宝

3年次の薬剤師業務体験学習では、株式会社応用医学研究所で受託試験機関の業務を体験させて頂きました。応用医学研究所では製薬会社から委託され、医薬品の品質を保証する様々な試験を行っています。初日に会社・業務説明をお聞きし、ラボツアーをさせて頂いた後、残り4日間で新入社員を対象とした基礎実技研修「HPLCを用いた医薬品含量の測定試験」を体験させて頂きました。この研修で、試験において必要な手技や信頼性を保証するための記録、データの取り方について学びました。特に信頼性を保証するための記録は非常に多く、標準品から装置の適合性まですべてを疑い、すべてを確かめる必要があります。そうしなければ試験そのものの信頼性が損なわれてしまうのです。当たり前のことではありますが衝撃的でした。

委託試験機関での業務に薬剤師免許は必要なく、業務上で薬剤師の役割はありません。しかし、対象となるものが医薬品であるため、薬学の知識を有することは、業務への深い理解を得るうえで有利であり、その知識を職員の方と共有することは会社全体の質の向上に結びつくのではないかと感じました。今回の学習では、薬剤師の免許を取得することも大切ですが、その背景となる知識や経験が何より財産であることを学びました。またその財産を生かすには、どのような形で会社に貢献できるのかを意識し考えることが必要です。薬剤師の可能性について考える、貴重な経験となりました。

●実習施設：帯広市　道立帯広保健所、ツルハ帯広東４条店

3年　越野　早紀

私達にとって身近な存在であるドラッグストアと、普段生活していても一見身近に感じることのない行政機関である保健所、この二つの施設で私は薬剤師関連業務を体験しました。

保健所において、薬剤師は薬事監視や立ち入り検査、感染防止事業や医療相談などを行っており、薬剤師のライセンスを直接的に必要とされることはないものの、微生物学、化学あるいは公衆衛生学などの知識が業務に必要であると感じました。そして、ドラッグストアで勤務する薬剤師には、医薬品や健康食品類などに関する知識の他、接客能力など幅広い知識や技能が必要だと感じました。また、OTC薬は処方薬に比べ手に入りやすく、乱用・重複投与・相互作用の防止のためにも、薬剤師にはOTC薬の適正使用に関する知識が必要で、かつ医薬品登録販売者の方々への指導、教育も要求されているとのことでした。ドラッグストアにおいても問題解決能力の高い薬剤師が、これからは求められていくと感じました。

今回の体験学習から、保健所は、病院・衛生・安全・法律など多岐にわたって地域社会を守る重要な役割を果たしており、一方ドラッグストアは保健所の監査・指導の基でより安全に医薬品などを個人に提供していることを体験できました。一見何の関わりもないように思える両機関が、実際には密接に連携し、地域住民の健康づくりに貢献していることがわかりました。お客様への対応や薬に関する知識など改善点はあるものの、全力で取り組んだ5日間の体験学習は自分にとって非常に有意義で価値あるものでした。

最後に、今回の実習で薬剤師という職業観が広がったと同時に、地域社会における薬剤師の役割や必要性を再認識できました。今後は、今回の経験を生かし、社会から必要とされる薬剤師となるべく日々の勉強に励んでいきたいと思います。

本学奨学生（1年生）が決定

学部1年生の奨学生が決定し、証書授与式を平成22年11月22日（月）に行いました。1年生の奨学生は、前期の成績結果により選考され、優秀な成績を修めた10名の学生に奨学金6万円が給付されます。授与式では大和田学長から奨学生証書と奨学金が授与されました。奨学生は右記のとおりです。

学部奨学生1年

稲村　明洋	及川　赳矢
小林万里子	近藤　　好
坂井　亜利紗	佐藤　菜穂
谷山　遼太	西川　真由
檜山亜由美	山田　晃己

平成22年度父母懇談会を開催

平成22年10月に道内6地区、道外5地区において父母懇談会が開催されました。今年度は311名（対在籍学生数28.1％）のご父母の方々にご参加いただき、学生生活や学業について様々な情報を交換しました。今年度は5年次学生のご父母の参加が51名（34.5％）と非常に多く、次年度に迫る就職活動や国家試験に対する関心の高さが伺えました。また、今年度新たに作成した大学紹介ビデオを控室でご覧になったご父母からは、大学生活の様子がよくわかった、との声をいただきました。今後ともご父母の皆様と密に連携をとりながら学生を支援していきます。

「桂岡・銭函地区のゴミ拾い」を実施

桂青会地域連携局長　3年　新井諒也

1～3年の学生と教職員の総勢416名による桂岡・銭函地区のゴミ拾いが平成22年9月17日（金）の午後に実施されました。当日は天気に恵まれ、無事に開催することができました。学長挨拶の後、クラスごとに分担してそれぞれの経路のゴミを約1時間にわたって集めました。昨年度に引き続いての桂青会主催のゴミ拾いですが、近隣住民の方々にも協力をいただきながら、銭函海岸まで範囲を拡大して行いました。

桂青会では、次年度以降も地域と密着しながら、このゴミ拾いを続けて行く予定です。

各地の基幹病院に聞く　市立函館病院

地域医療における薬剤師の可能性

本学の教育目標の一つである「地域社会に役立つ医療人の育成」。地域医療の重要性に注目が集まるなか、各地ではどんな取り組みが行われ、また、どんな現状があるのか。今回は、市立函館病院を訪ね、木村純院長と野田幹雄薬局長に函館地域における薬剤師の活躍の可能性を伺いました。

院長　木村 純 氏

薬局長　野田 幹雄 氏

地域独自の病病連携のなかで高まる薬剤師の役割

木村　函館市は、28万人強の人口に対して、基幹病院たりえる総合病院が5つ程度もあり、充実した地域医療を提供するポテンシャルが非常に高い地域です。しかし一方で、病院長会議などでは常に、薬剤師不足の問題が取り上げられています。日常の診療に対応する薬剤師に加えて、たとえば服薬指導だったり、抗癌剤のミキシング等々、大きな病院が本来、取り組まなければならない内容について、薬剤師が足りないばかりに手が回らないという現状があるのです。

野田　そうですね。昨今、チーム医療ということがいわれ、薬剤師の力がますます必要になるなかで、そこに割けるマンパワーが圧倒的に不足しています。当院では病棟の各階に、混注や服薬指導の拠点としてサテライトファーマシーを設けていますが、人員的に手薄になりがちなのが現状なのです。今のままでは本当に取り組みたいチーム医療の体制づくりは難しいと言わざるを得ません。

木村　薬剤師としての知識、技術を発揮できる現場ということで言うと、当院も含めた5つ程度の病院では積極的に病病連携を行っており、そこには単体の医療機関ではできない関わり方や、研鑽を積めるという環境があります。それは、たとえば癌、脳疾患、心筋梗塞などそれぞれの医療機関が得意とする分野を生かした連携だったり、PET装置といった医療機器の利用を共有するなど密接な関係にあるのです。当院では癌の地域連携パスづくりに取り組んでいて、病院を横断する医療のなかで薬剤のチェックや、副作用に関する指導など薬剤師の専門性が必須となる分野も広がりつつあります。こうした函館ならではの地域医療の可能性に、北薬大の学生さんにはぜひ目を向けて欲しいですね。

研鑽を積み専門性を生かせる環境づくりを推進

野田　それらの仕組みは、これから作り上げていかなければならない部分が多く、その意味で将来性はあると思いますし、薬剤師に期待するところも少なからぬものがあります。癌診療に力を入れている当院では、抗癌剤のミキシングを依頼されることも多く、薬剤師は実に忙しい日々を送っていますが、口々にやりがいを語ってくれています。その様子から、薬剤師の本領が発揮できる場面をもっと増やさなければならないと考えていますし、勉強会などに参加しやすい環境づくりも進めているんです。函館は製薬メーカーが行う勉強会や講演会なども多い地域なので、最新の情報に触れやすいというメリットもありますね。

木村　基幹病院としての役割では、新薬の開発に関わる臨床試験や治験も、専門の部署を作って専任の薬剤師を充てるという体制を、ここ数年のうちに作りたいと計画しています。

野田　治験に関しては、薬剤師と看護師、それぞれの専門性を備えたコーディネーターも必要と考えています。新薬の開発に興味があるという方には近い将来、そうしたチャンスを与えることができるかもしれません。

木村　先ほども触れたように、函館ではチーム医療という考え方が他の地域に比べて進んでいて、当院をはじめ薬剤師もそのコアメンバーとして必須の存在という見方が定着しています。なおかつ、病院間同士でもチーム医療を行おうという意識が強く、双方向で患者情報をやり取りできる独自の情報システムも有効に稼働しているんです。

野田　函館の医療機関は、当院を含む総合病院を中心に、ハード面でも充実していることが特長です。ですから、大学で学んだことを実践で生かせる場が多いことは確かですし、病院同士の垣根が低く、薬剤師同士も仲がよくて、情報交換を通してしっかりと現状を把握しながら、広い視野を持って研鑽を積むという上昇志向の土壌もあります。地元出身の方はもちろん、先進的な地域医療に興味があるなら、函館はやりがいのあるエリアだと思いますね。

左から本学 就職部長 渡辺一弘、薬局長 野田幹雄 氏、院長 木村 純 氏、本学 広報部長 渡辺泰裕